

国立大学法人 神戸大学
大学教育推進機構 教養教育院
全学共通科目「ESD 教育部会」
外部評価報告書

2024 年 3 月

第1部『ESD部会 自己点検・評価書』

令和6年（2024年）2月

国立大学法人 神戸大学
大学教育推進機構 教養教育院
全学共通科目「ESD部会」

部会長 稲原 美苗
幹事 津田 英二
ESDコース専門委員会委員長 松岡 広路
ESD総合コーディネーター 鴨谷 真

目次

<u>1 神戸大学の教育目標</u>	5
<u>2 神戸大学の教養教育</u>	6
<u>2-1 教養教育の目標：神戸スタンダード</u>	6
<u>2-2 教養教育の運営体制・組織</u>	7
<u>2-3 全学共通授業科目</u>	8
<u>2-4 教育部会</u>	9
<u>3 ESD 部会の特徴</u>	10
<u>3-1 神戸大学 ESD コースとのクロスカリキュラム方式</u>	10
参考 <u>神戸大学 ESD コースとは</u>	10
<u>3-2 ESD 部会の組織と運営体制</u>	11
参考 <u>ESD 部会・神戸大学 ESD コース・大学教育推進機構の沿革</u>	11
<u>3-3 ESD 部会の学修目標と授業科目</u>	12
<u>3-3-1 総合教養科目【ESD】区分の学修目標</u>	12
<u>3-3-2 授業の概要 カリキュラムなど</u>	12
<u>4 授業の実態</u>	15
<u>4-1 履修状況の詳細と変遷</u>	15

4-2	<u>2023（令和5）年度の授業内容とその特徴</u>	16
4-3	<u>成績評価</u>	21
4-4	<u>コロナ対応</u>	21
4-5	<u>ティーチング アシスタント・ステューデント アシスタント</u>	22
5	<u>教育の質の改善・向上にむけて</u>	22
5-1	<u>学生による授業評価</u>	22
	● <u>アンケート結果について</u>	22
	● <u>自由記述について</u>	23
5-2	<u>ピアレビュー（授業参観）</u>	23
6	<u>ESD 部会の課題と今後の展望</u>	24
6-1	<u>担当教員のコミュニティが閉鎖的になっていないか？</u>	25
6-2	<u>クォーター制・少ない授業コマ数に適應できているか？</u>	25
6-3	<u>めざすのはSD 理解か？ ESD 理解か？</u>	25
6-4	<u>深い学びを提供できているか？</u>	25
6-5	<u>多様な学生のニーズに應えられているか？</u>	25
6-6	<u>実践現場との接触を促す仕組みになっているか？</u>	25
6-7	<u>少数精鋭か？ 神戸スタンダードか？</u>	26

<u>6-8 展望1：教養教育の枠組みでの拡充を</u>	26
<u>6-9 展望2：中間支援組織との連携によるサービスラーニングを</u>	26

1 神戸大学の教育目標

神戸大学は、「開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯 自由 協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成」することを使命としている。また、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献するために、学部及び大学院で国際的に卓越した教育を提供することを基本理念と定めた神戸大学教育憲章に則り、教育を行っている。

神戸大学教育憲章（平成14年5月16日制定）

神戸大学は、国が設置した高等教育機関として、その固有の使命と社会的・歴史的・地域的役割を認識し、国民から負託された責務を遂行するために、ここに神戸大学教育憲章を定める。

（教育理念）

1 神戸大学は、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献するために、学部及び大学院で国際的に卓越した教育を提供することを基本理念とする。

（教育原理）

2 神戸大学は、学生が個人的及び社会的目標の実現に向けて、その潜在能力を最大限に発揮できるよう、学生の自主性及び自律性を尊重し、個性と多様性を重視した教育を行うことを基本原理とする。

（教育目的）

3 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、国際都市のもつ開放的な地域の特性を活かしながら、次のような教育を行う。

- (1) 人間性の教育：高い倫理性を有し、知性、理性及び感性の調和した教養豊かな人間の育成
- (2) 創造性の教育：伝統的な思考や方法を批判的に継承しつつ、自ら課題を設定し、創造的に解決できる能力を身につけた人間の育成
- (3) 国際性の教育：多様な価値観を尊重し、異文化に対する深い理解力を有し、コミュニケーション能力に優れた人間の育成
- (4) 専門性の教育：それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担うことのできる、深い学識と高度な専門技能を備えた人間の育成

（教育体制）

4 神戸大学は、教育理念と教育原理に基づき、その教育目的を達成するために、全学的な責任体制の下で学部及び大学院の教育を行う。

（教育評価）

5 神戸大学は、教育理念と教育原理が実現され、教育目的が達成されているかどうかを不断に点検評価し、その改善に努める。

2 神戸大学の教養教育

2-1 教養教育の目標：神戸スタンダード

神戸大学は、「学理と実際の調和」という開学以来の教育方針の下、教育憲章に示された「人間性」「創造性」「国際性」「専門性」を高める教育を実施するとともに、各学部がグローバル化に対応した様々な教育プログラムを開発してきた。このようなプログラムに参加する学生だけではなく、全ての学生を、自ら地球的課題を発見しその解決にリーダーシップを発揮できる人材へと育成することが学士課程の課題である。

そこで、全学部学生を対象とする教養教育において、神戸大学の学生が卒業時に身につけるべき共通の能力を「神戸スタンダード」として明示し、その修得を教育目標とする。

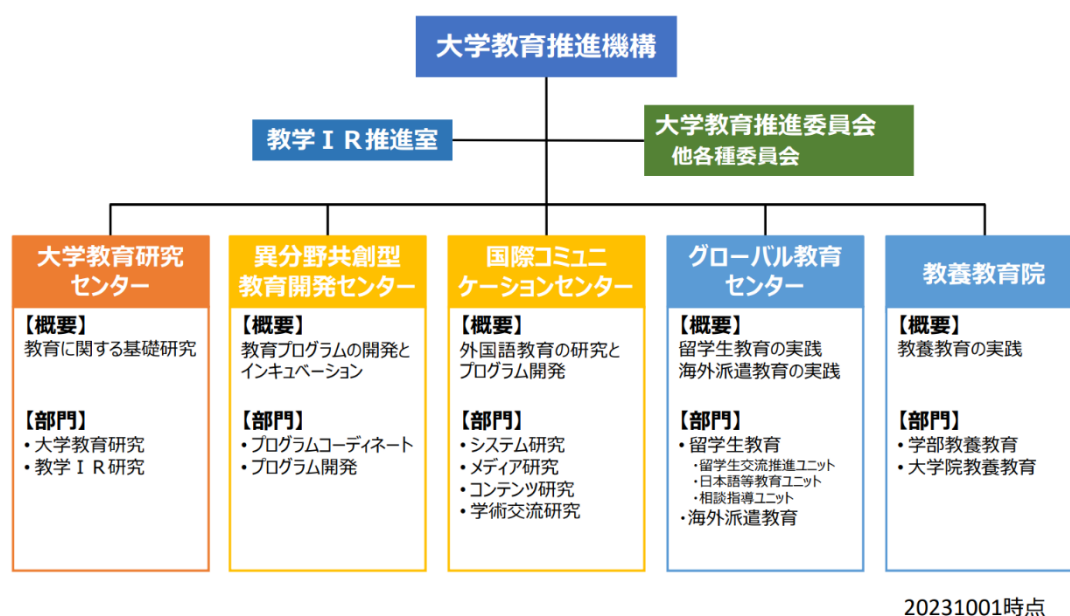
【神戸スタンダード】

- 複眼的に思考する能力：専門分野以外の学問分野について基本的なものの考え方を学ぶことを通して複眼的なものを見方を身につける
- 多様性と地球的課題を理解する能力：多様な文化，思想，価値観を受容するとともに，地球的課題を理解する能力を身につける
- 協働して実践する能力：専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力と，困難を乗り越え目標を追求し続ける力を身につける

2-2 教養教育の運営体制・組織

神戸大学の教養教育は「教養教育院」が責任機関となり運営されている。「教養教育院」は、神戸大学全体の教育方針・運営に責を担う「大学教育推進機構」のもとにある5つのセンター及び機関のうちの一つである。「教養教育院」の下に22の科目別部会が組織される。各部会が独自に授業の運営を進める一方、教養教育に関わる大学全体の方針や制度、予算等については、ほぼ毎月定期開催される「教養教育委員会」にて審議される。

(参考1) 機構組織概念図



(参考2) 「大学教育推進機構長 挨拶」HPより

「神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を發揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成することを使命とし、2002年に制定した教育憲章において、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献するために、国際的に卓越した教育を提供することを教育の基本理念と決めました。

また2021年に就任した藤澤学長のもとで、本学のもつ人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命医学系諸分野における強みを社会に活かし、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを長期ビジョンとし、教育においては、このビジョンを踏まえ、持続可能なこれからの新しい社会を豊かに生きるための多様性、国際性、卓越性と柔軟性に富んだ教育を重視しています。AI、IoT、ビッグデータ解析、ICT基盤をもとに本学の知的資源を最大限に活用し、新たな価値を創造し社会実装できる有能な人材を養成するために、文

理の枠を超え社会と協働し産官学共創による知識、能力、技術の実践的教育、価値創造教育、さらに数理データサイエンス教育を推進していきます。

大学教育推進機構は、全学の学士課程及び大学院課程の教育に関する企画・戦略を検討し、教育憲章で定められた「人間性の教育、創造性の教育、国際性の教育、専門性の教育」の4つの教育目的を達成するために、2005年7月に設置されました。2022年度からは本機構は長期ビジョンの実現に向け、全学共通教育を担う教養教育院、留学生教育及び海外派遣教育を担うグローバル教育センター、全学の外国語教育の充実を図るための国際コミュニケーションセンター、異分野共創型の教育プログラムの開発とコーディネートを図るための異分野共創型教育開発センター、大学教育を研究するための大学教育研究センターからなる組織改編を行いました。

現代社会は、デジタル化、知識集約型社会へと急速に変化する一方で、地球温暖化などの地球規模的課題に直面しています。このようにダイナミックに変化する環境の下、地球規模的課題に取り組み、解決できる人材を育成するため、新たなスタートを切った大学教育推進機構は、大学内外の多様な方々と共創教育を実践し、知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点を形成して参りたいと思います。

大学教育推進機構長
大村 直人

2-3 全学共通授業科目

神戸大学の教育課程のうち、教養教育に相当するものは、「全学共通授業科目」として教養教育院が開講する。各学部が開講する専門科目と並行して、1～3年次に履修することとなっている。「ESD」科目は「総合教養科目」に分類される。

【全学共通授業科目の区分】

1. 基礎教養科目
2. 総合教養科目
3. 外国語科目
4. 情報科目
5. 健康 スポーツ科学
6. 共通専門基礎科目
7. 資格免許のための科目
8. その他必要と認める科目

【総合教養科目】

総合教養科目は、多文化に対する理解を深め、多分野にまたがる課題を考え、対話型の講義を取り入れるなどの工夫により、複眼的なものの見方、課題発見力を養成することを目的とし、以下の7つ区分毎に学修目標を定めることとなっている。(1) 多文化理解 (2) 自然界の成り立ち (3) グローバルイシュー

- (4) ESD (Education for Sustainable Development)
- (5) キャリア科目
- (6) 神戸学
- (7) データサイエンス ※ESDの学修目標は後述する

2-4 教育部会

これらの科目は全学組織である神戸大学大学教育推進機構国際教養教育院の下におかれた22の「教育部会」により担われている。その内訳と構成員人数は以下のとおりである。総合教養科目の7つの区分は、複数の教育部会によって運営されるが、【ESD】については、「ESD 部会」が単独で担っている。

教育部会構成員の総計は、本学の全教員数の約半数に相当するが、教育部会に所属する教員比率は、部局ごとに差異がある。また各部会の構成員は複数の部局に渡る。

比較的少人数の部会に属する「ESD」は、2023年度は人間発達環境学研究科（国際人間科学部）7人、人文学研究科（文学部）1人、経済学研究科（経済学部）1人、医学研究科（医学部医学科）1名、農学研究科（農学部）1人、都市安全研究センター（工学部）2人、社会システムイノベーションセンター1人によって構成された

【教育部会構成員】 2023年10月1日現在

1.	情報科学	44
2.	健康・スポーツ科学	34
3.	人間形成と思想	35
4.	文学と芸術	25
5.	歴史と文化	24
6.	人間と社会	27
7.	法と政治	13
8.	経済と社会	39
9.	数 学	40
10.	物理学	62
11.	化 学	73
12.	生物学	52
13.	地球惑星科学	19
14.	図形科学	2
15.	応用科学技術	23
16.	医 学	38
17.	農 学	48
18.	ESD	15
19.	データサイエンス	25
20.	学 際	129
21.	外国語第Ⅰ（英語）	34
22.	外国語第Ⅱ（独語）	11
23.	（仏語）	7
24.	（中国語）	5
25.	（ロシア語）	1
26.	（その他言語）	2
	計	827

3 ESD 部会の特徴

3-1 神戸大学 ESD コースとのクロスカリキュラム方式

ESD 部会は、2007年に文部科学省のGPに採択された「神戸大学 ESD サブコース」事業と連動して運営されてきた。本コースは、本学在学4年間で所定の科目を履修することで ESD 実践者を育成することを目的としたもので、ESD 部会の所管する教養教育と各学部の専門科目を連動させたカリキュラム設計となっている。ESD 部会の所管する ESD 科目群は、本学の教養教育と ESD コースの結節に位置し、クロス科目群とすることができる。ESD 科目群は、他の教育部会の科目と連動して学びが拡張する基点であると同時に、ESD コースの専門科目群（ESD 演習や ESD 実践論など）とも接続して学びが深まるための基礎的な科目群ということである。

それゆえ、全学教務委員会の下で運営される神戸大学 ESD コースの専門委員会と教養教育院下にある ESD 部会は、緊密な連携を取って授業を運営することが心掛けられてきた。歴代の ESD 部会長とコース専門委員会委員長は、兼任ではないものの、両組織に所属する教員集団から選出されてきた。また、他の教育部会と違い、ESD 部会所管の授業群と ESD コースカリキュラムのそれぞれの内容の整合性を調整する「ESD 総合コーディネーター」が配置されている。

しかし、クロスカリキュラム方式は、学生の授業への姿勢や期待の分化・分散化を生む温床でもある。単に教養教育の科目を充足させる目的の学生と、ESD を探究しようとする学生との授業への姿勢・意欲の違いは大きい。もちろん、両極の間には ESD 部会の ESD 科目群を自身の専門性に生かすことを意図する学生も少なからず存在しているが、学生集団における意欲・目的の分化・分散化、換言すると、複数の学びのベクトルの生成が生じやすい状況下で、それに丁寧に対応する必要性が、ESD 科目群の運営において、つねに求められてきた。

参考 神戸大学 ESD コースとは

神戸大学 ESD コースは、持続可能な開発（Sustainable Development）の推進に強い関心を持つ発達科学部（現「国際人間科学部」）・経済学部・文学部の教員集団によって、新しい部局間連携教育モデルの構築を期し、2007年に創設された。同年に、文部科学省の GP（Good Practice）事業に採択され、その後の3年間は潤沢な財源を背景に、国内外の専門家の招聘、グローバルスタディツアー、学外でのフィールドワークなどを組み込んだ ESD にふさわしい学習プログラムが企画・実施された。

現在は、紆余曲折を経て、全学部の学生が履修できる全学教育モデルになるとともに、全学教務委員会の下に「神戸大学 ESD コース専門委員会」が組織され、カリキュラム整備・コース修了認証が行われている。上述したように、ESD 教育部会は、教養教育に配置されている ESD 関連の授業の企画・運営の調整を役目としている。

そして、当初より、こうしたクロスカリキュラムをコーディネートすることを主務とする「ESD 総合コーディネーター」が配置され、現在は、人間発達環境学研究所

(発達科学部に接続する大学院組織)と大学教育推進機構・国際教養教育院(現「教養教育院」)の共同財源で運用されている。

神戸大学 ESD コースの学修モデルは、学び直しを意味する「アンラーン(Unlearn)」と「実践との接触」を基本とする。まず、ESD 基礎・ESD ボランティア論などの ESD 基礎科目群で、学生は、各自の思い込みや囚われてきた常識を学び捨てるとともに、自身の認識装置(視点・視野・方法)を批判的に検証する。次に、各学部が開講する持続可能な社会づくりに関連する科目のなかで、各専門性と接続した ESD を学び、さらにフィールド演習科目(ESD 演習・ESD 実践論等)でアクション・リサーチを通して ESD 実践の現実理解を深める。1年次～4年次の4年間で、ESD を実践化する資質・経験を増加させることがねらいとされている。所定の単位を修得した学生は、卒業時に学長から「ESD コース修了認定証」を授与される。

しかし、後述するように、神戸大学 ESD コースは、全学の専門教育の多様化への対応が難しいことや、修了学生数の少なさ、担当教員の後継者不足など、多くの問題を抱えている。ESD を全学の学修モデルとして根付かせるためには、クロスカリキュラム方式の見直しが求められている。すなわち、教養教育としての ESD に焦点を定め、その充実を図ることが必要ではないかと考えられている。

3-2 ESD 部会の組織と運営体制

ESD 部会は、2010年に設置され、他の教育部会に比べると新しい。また、神戸大学 ESD コースと深い関係をもつ。それゆえ、「教育部会長選出方法に関する覚書」(2005年3月17日全学教育等専門委員会決定)および「神戸大学大学教育推進機構の教育部会に関する内規」の改訂(2015年4月1日)にもかかわらず、部会長1名、幹事1名は、やや固定的となっている。

ESD を推進する中心的な学内組織である神戸大学大学院人間発達環境学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター(以下、「HCセンター」と略)の教員がその任を請け負ってきた。具体的には、部会長は、初代：松岡広路教授(HCセンター)、第2代：清野未恵子准教授(同)、第3代：稲原美苗准教授(同)、幹事は初代：伊藤真之教授(人間発達環境学研究科)、第2代：津田英二教授(継続)である。これは、部会メンバーの多くが、オムニバス系の ESD 授業の担当者であり、全体を俯瞰・調整する教員の育成・発掘・継承が容易ではなかったことに起因する。本部会の組織体制をどのように維持するかは、大きな課題となっている。

また、本部会は少人数でありながら、各自の所属部局を超えたメンバー間の交流は活発とはいえ、お互い面識さえないことも大きな課題となっている。ESD 総合コーディネーターが間を取り持つ役割を担ってくれているものの、こうした部会の現状をふまえると、抜本的な改革が求められる。

参考 ESD 部会・神戸大学 ESD コース・大学教育推進機構の沿革
1992年4月 教養部を改組し、大学教育研究センターを設置

2005年7月	大学教育研究センターを大学教育推進機構に改組 機能強化
2007年4月	文部科学省現代教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）「アクション・リサーチ型ESDの開発と推進—学部連携によるフィールドを共有した環境教育の創出—」採択
2008年4月	神戸大学ESDサブコース（現「神戸大学ESDコース」）の開始
2010年4月	大学教育推進機構に「ESD部会」発足
2015年4月	全学共通教育部を改組し、国際教養教育院が発足
2016年4月	2学期・クォーター制の導入 授業名称の大幅な変更
2022年4月	国際教養教育院を「教養教育院」に改称

3-3 ESD部会の学修目標と授業科目

3-3-1 総合教養科目【ESD】区分の学修目標

「〈地球〉を枠組みとした新しい教育運動であるESD（持続可能な開発のための教育）の本質と方法的な特徴を理解し、経済・社会システムの変更や人間のライフスタイルの変化を引き起こすために、われわれが、何を考え、何を变えなければいけないのかを考究する。個人主義的な教育観から小集団・構築主義的な教育観への変更、単一専門性幻想から共同的専門性へのパラダイムの転換など、これまでの常識をくつがえすための方法論を探究してゆく。学生・教員・学外者が、社会的活動やフィールドワークでの協働作業を通して、実践現場にふれながら、新しい動きとしてのESDに〈タッチ〉することが目標である。」

（「科目区分表」より抜粋）

3-3-2 授業の概要 カリキュラムなど

詳細は別添「参考資料3）シラバス」を参照のこと

(1) カリキュラム上の特徴と工夫

改めて、ESD部会の所管する2022年度の授業を抜粋すると、以下の7科目となる。

- 「ESD基礎」（第2Q） 「ESDボランティア論」（第2Q）
- 「阪神淡路大震災と都市の安全」（第2Q）
- 「ESD論A」（第3Q） 「ESD生涯学習論A」（第3Q）
- 「ESD論B」（第4Q） 「ESD生涯学習論B」（第4Q）

これらのESD科目群では、カリキュラムのなかに、フィールドワークによる持続可能な社会づくりへの接近の機会を設けており、コロナ禍により昨年度まで控えめに実施していたフィールドワークを、今年度はコロナ渦前と同等な形で実施することができた。

実践への導入として、フィールドワークを重視する全学の環境・開発・人権・福祉関係の教員にミニレクチャーを担当していただきながら、出来るだけ座学とフィールドワ

ークを組み合わせた経験学習のスタイルを重視してきた。

さらに、グループワークを通して学生個々の「現実を認識する力・視座・枠組み」を学生自身がみずから再検討することで、ESD の学びの第一歩とするカリキュラム構成になっている。

今年度、特に工夫・改善した点は、全ての科目を対面形式で行い、ほとんどの授業回で、学生同士のディスカッションの時間を設けようとしたことである。コロナ禍のオンライン授業の影響で令和 3 年度は対面でのディスカッションにかなり慎重になっていたため、今年度からの対面のディスカッションが学びを促進するかが課題となっていたが、TA・SA によるサポートや、対話を促進する授業内の様々な仕掛けにより、グループディスカッションを円滑に進めることができた。

(2) 現状と評価

第 2Q の「ESD 基礎」「ESD ボランティア論」、第 3・4Q の「ESD 論 A・B」「ESD 生涯学習論 A・B」、それぞれの科目の履修者数は例年と比較して少なかった。ESD 基礎科目の履修者の多さは、次の年に続く「ESD 演習 (国際人間科学)」(第 2 学年以上、高度専門科目) の履修者の多さに影響すると予想している。また、ESD 基礎科目における ESD の定着度合いは、ESD 演習 (国際人間科学) を進める学生たちの ESD の理解の深さや実践活動にも影響する。その意味で、ESD 基礎科目の履修者数を増やし、R5 年度に開講している ESD 演習 (国際人間科学) における ESD への理解の深さをみることで、ESD 基礎科目が良い学びを提供していたかを問うことができる。したがって、学習効果は経年変化からしか評価できない部分もあると考える。ただし、学生からの評価が高いのは、ESD 部会が提供する科目の多くのが他学部の学生との交流を充実させている点である。それは、各授業における学生たちの反応や、リフレクションシートだけではなく、7,8 回目の授業で行われるリフレクション・ワークショップのなかで確認することができた。こうした知的交流の機会としての重要性は引き続き授業の要素として引き継いでいきたい。

(3) 課題について

・授業に関する今後の課題

1 つ目に、過去のオンラインの授業が、アクティヴ・ラーニングの軸となるグループディスカッションにおいて、苦手意識を持つ学生・意欲的な態度で臨む学生に分かれるという傾向に影響していると感じた。人との繋がりに苦手意識を持つ学生たちが潜在的に持っている対面コミュニケーションのスキルを発露する機会として、ESD の授業を位置付けていく必要がある。

2 つ目に、フィールドワークの質の維持である。地球規模の課題と自身のつながりを意識することが ESD において重要であるが、地球規模の課題を意識できるようなフィールドワークの質と量の確保が困難になってきている。それは、コロナ禍により社会での実践が縮小している傾向がまだ続いていることが影響している。フィールドワークと座学の往還の効果を高めるためには、学内の講義だけでなく、良質な学外のフィールド

の確保が課題であり、そうしたフィールドの発掘には ESD 総合コーディネーターの役割が大きいと考える。

3つ目に、これまでと同様に、他の部会の授業にも ESD に関連しているものと連動した新しい教育領域としての発展を望みたい。持続可能な開発の推進と深く関連する ESD を神戸大学のユニークな教養科目として展開することは、SDGs と SDGs を超えた先の目標の達成にも影響すると考えられる。本部会の担当教員と、神戸大学 ESD コースの授業担当者のネットワーク形成が、ESD 総合コーディネーターを通して進められることが望ましい。

(4) 総合所見 全体としてのまとめ

対面型の授業に戻り、オンライン授業の弊害を克服しながらアクティヴ・ラーニングを進めることが今年度の課題であった。そこで、アイスブレイクやグループディスカッションやポスター形式の情報共有スタイルを通して、学生同士らの知的な交流を促進する場を丁寧に作り上げてきた。そこには TA・SA と ESD 総合コーディネーターの役割が欠かせなかった。また、ESD の学習プログラムの根幹となっているフィールドワーク（体験）と座学の往還ができるようになったが、フィールドワークの少なさから、ESD の知識のみが深まっていくことへの懸念は今年度も継続した。ポストコロナのアクティヴ・ラーニングの授業運営、知識を行動につなげうる良質なフィールドワークの可能性を探ることが、次年度の目標である。

そこで令和 5 年度は、履修数を増やすための履修の仕組みを導入し、良質なフィールドワークの発掘を試みる。良質なフィールドワークの発掘には、フィールドワーク（実践）と研究の双方に取り組む教員とのつながりも鍵となるのではないかと考えている。そこで、「阪神淡路大震災と都市の安全」との連携はもとより、ESD 教育部会の枠を超えたネットワークづくりが必要となると考えている。

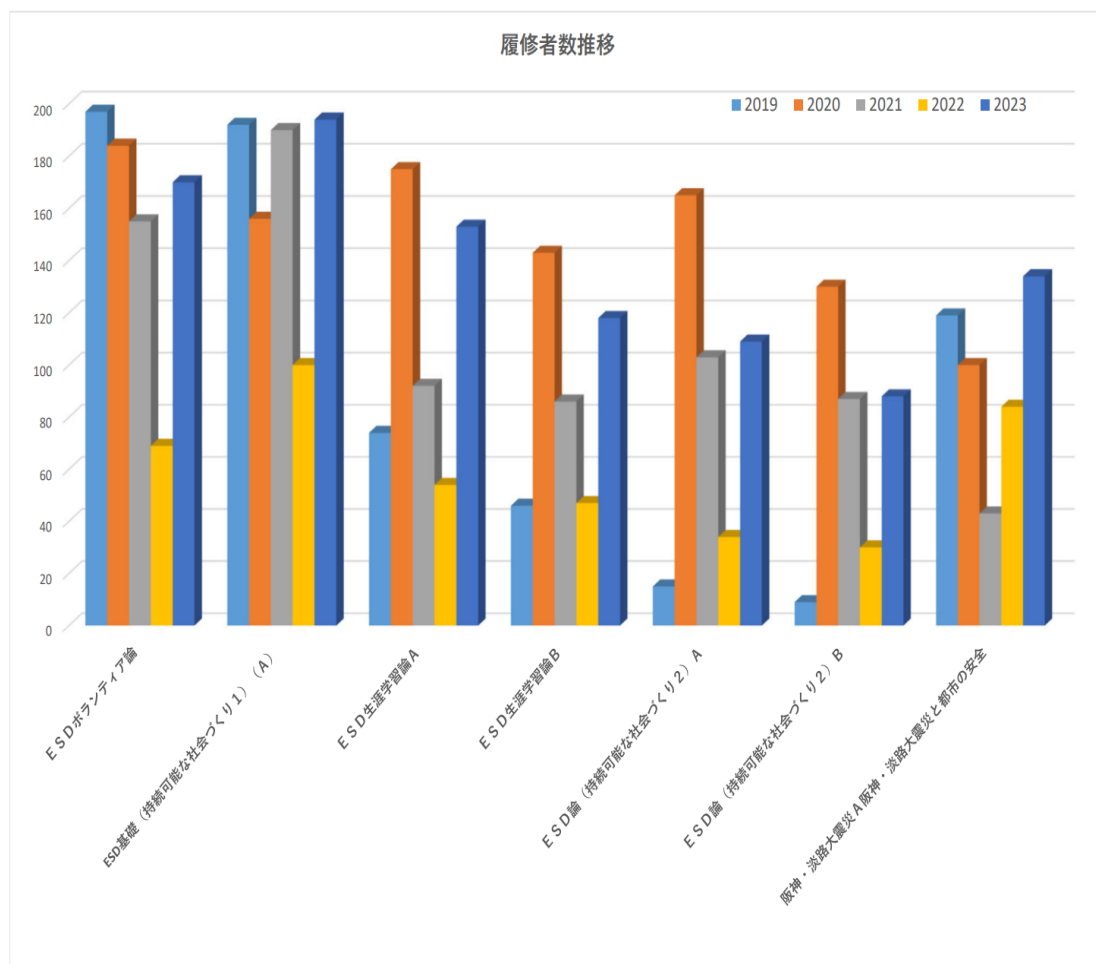
SDGs を達成する手法として着目され始めている ESD は、多様な専門が出入りするプラットフォームとして機能することも期待されている。学生だけではなく、全学の教員が ESD に関与することを通して、持続可能な開発をめぐる学問の在り方を考慮する可能性が高まることも期待される。ESD 教育部会の参加教員を増員するとともに、ESD や SDGs に関連する授業の増設に努めたい。

4 授業の実態

4-1 履修状況の詳細と変遷

2020年度～2023年度前期の各科目の受講者数の詳細は、別紙「参考資料 1) 履修者数・成績分布」のとおりである。学生は受講科目の希望を提出し、多い場合には抽選となる。1年生前期は教養教育の科目受講から除外される。上限はほぼ200名程度である。

なお、各授業の過去5年間の履修者数は、以下のようになっている。コロナ禍の影響が少なからずあったものの、2023年度には、どの授業も履修性が増えている。とりわけ、ESD論A・Bは、オンライン授業が宣伝となったのか、コロナ以前よりも履修生が増えた。



4-2 2023（令和5）年度の授業内容とその特徴

本部会の主要な授業7つの各授業の概要は、以下のとおりである。

※複数年度のシラバスは、別添「参考資料2）シラバス」を参照されたい。

ESD 基礎では、フィールドワークとワークショップを通して、認識装置のアンラーンを体験してもらうことが入内となっている。

ESD基礎（（持続可能な社会づくり1）

ESD基礎では、あらゆる人との関係づくりや学び合い（協働・共同・協同）を体験するとともに、頭と体と心をゆるめほぐすなかで、固定観念や思い込みを一旦学びすて、また構築することを繰り返し、「ゆらぎ」も体験してもらいます。ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。

■ 授業の概要と計画

ESDが射程にいられている社会的課題を認識しつつ、出会いとアンラーン（学びほぐし）を通して、自身の認識装置を見直します。

この授業は対面と遠隔授業（リアルタイム）を組み合わせでおこなうブレンド型授業の予定です。※社会情勢をみながら、遠隔授業のみに変更する可能性もあります。

【授業の進め方（予定）】

1回 6/14 ガイダンス「SDとは」

2回 6/21 キャンパスSDGsワークショップ

3回 6/28 学内フィールドワーク

4回 7/ 5 神戸大学のSD問題を考える

5回 7/12 神戸大学のSD問題の共有

6回 7/19 神戸大学大改造計画づくりワークショップ（1）

7/8回 7/26（17:00～19:00）神戸大学大改造計画づくりワークショップ（2）

※最終回は、17:00～19:00の2時間で行います。

ESDボランティア論では、現場のボランティアやコーディネーターの話を聞くとともに、ワークショップを通して、当事者性の高まる企画について検討する。

ESDボランティア論
ESDボランティア論では、あらゆる人との関係づくりや学び合い（協働・共同・協同）を体験しながら、（互いに異質であることの面白さや出会いの大切さを感じながら）、頭と体と心をゆるめ、ほぐすことで、固定観念やこだわり、思い込みを学び捨てていきます。 ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。
■ 授業の概要と計画
ESDに関連するボランティア団体からの話題提供と、ボランティア参加、それらを通じたグループ対話から、ESDとボランティアの関係について考えます。 この授業は、基本的に対面を予定していますが、場合によっては遠隔授業（リアルタイム）の回も組み合わせながら、ブレンド型でおこないます。 ※社会情勢をみながら、授業方法を変更する可能性があります。 【授業の進め方（予定）】 1回 6/12 ガイダンス「ボランティアとは」 2回 6/19 ボランティアが社会を変える（1） 3回 6/26 ボランティアが社会を変える（2） 4回 7/ 3 ボランティアが社会を変える（3） 5回 7/10 ESDとボランティアの関係を考える 6回 7/14 この夏の私の活動を考える ※7/17が休日のため振替 7・8回 7/24 ESD交流会（17:00～19:00） ※ESD交流会は、17:00～19:00の2時間で行います。

以下、「阪神・淡路大震災と都市の安全」「ESD論A」「ESD生涯学習論A」は、持続可能な社会づくりの専門性に踏み込もうとする授業というベクトルをもち、「ESD論B」「ESD生涯学習論B」は、実践現場との接触の中で、より身体的なつながりを増すような授業である。

阪神・淡路大震災と都市の安全
<p>1995年に起きた阪神・淡路大震災は、現代都市が地震に襲われた最初の経験であり、大きな被害を生じた。それから23年が経ち、さまざまな対策が考えられている一方、人々の記憶は薄らいでいっている。この講義では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえながら、各分野の研究者と現場の専門家が協力して、その具体的な取り組みと今後の課題を明らかにしていく。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p>
<p>災害を防ぎ被害を最小限に食い止めることのできる社会、「減災社会」を創っていくために、学問と社会活動と政策の有機的な提携が必要とされている。震災による被害状況等について基礎事項を解説し、今後の対策を検討する上で重要な課題を考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 阪神・淡路大震災と住宅復興 2. 兵庫県南部地震と構造物の被害 3. 人的被害 4. 災害・復興に関わる法律・制度 5. NPO・ボランティアの役割 6. 災害と文化 7. 災害とジェンダー 8. 災害報道の役割

ESD生涯学習論A
<p>ESD生涯学習論Aでは、多様な社会教育実践を通じて、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追うことの楽しさや専門を総合化することの大切さを学んでもらいます。ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p>
<p>ESDの概念を明らかにしつつ、生涯学習の各領域との関連性を考究する。世代のつながり、あらゆる世代における学び、学校教育の範疇を超えた学習テーマや社会的課題を巡っての学習が総動員されて、ESDがすすむことについて理解する。【授業の進め方（予定）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 10/3 ガイダンス「ESDと生涯学習」 2回 10/17 拡張する学びの地平1～空間論 3回 10/24 拡張する学びの地平2～時間論 4回 10/31 持続可能な開発という学びのベクトル～SDGsとESD 5回 11/7 こどもの学びとESD 6回 11/14 奥深い対話～人と人のあいだ 7/8回 11/21 総合リフレクション

ESD論（持続可能な社会づくり2）A
ESD論Aでは、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追うことの楽しさや専門を総合化することの大切さを学んでもらいます。ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。
■ 授業の概要と計画
ESDに関連する研究・実践に関する講義から、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）の実例について理解を深めてもらいます。
【授業の進め方（予定）】 1回 10/5 ガイダンス
2回 10/12 SDと多様な課題①森林生態系とサステナビリティ
3回 10/19 SDと多様な課題②社会環境と持続可能な開発
4回 10/26 SDの多様な課題③開発と公平性－フェアトレードの意味 開発と地域創成
5回 11/ 2 SDの多様な課題④環境経済の現在・未来
6回 11/9 SDの多様な課題⑤人権・平和と持続可能な開発
7/8回 11/16 これまでの授業をふまえたリフレクション
※7、8回は17:00～19:00まで行います。

ESD生涯学習論B
■ 授業の概要と計画
ESD生涯学習論Bでは、ESD生涯学習論Aをふまえて、ESDと生涯学習の関係を肌で感じ取り、ESDを生み出す生涯学習支援方策への理解を深めてください。
多様な学生間の交流と、フィールドワークでの経験を通してESDとしての意味を探る。 【授業の進め方（予定）】 ※ESD生涯学習論Bの履修を希望している学生は、ESD生涯学習論Aと合わせて履修することが望ましいです。したがって、履修を希望する方は、ESD生涯学習論Aの最初の授業（10/3）に参加してください。
1回 12/5 ガイダンス ESDと生涯学習支援
2回 12/12 ESDの立ち現れる学習支援の方法1 アンドラゴジー
3回 12/19 ESDの立ち現れる学習支援の方法2 ネットワーキングとインクルージョン
4回 12/26 フィールドワーク1(または学びづくりワークショップ)
5回 1/16 フィールドワーク2 (または学びづくりワークショップ)
6回 1/23 ESDの立ち現れる学習支援の方法4
7/8回 1/30 (17:00～19:00) ESDの学びをデザインする
※リフレクションは17:00～19:00の2時間で行います。

ESD論（持続可能な社会づくり2）B

ESD論Bでは、ESD論Aをふまえて、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追うことの楽しさや専門を総合化することの大切さを、グループワークを通して主体的に学んでもらいます。ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。

■ 授業の概要と計画

SDGsの総合化を目指す（ポスト・ウィズコロナ社会のフィールドワークをイメージする）フィールドワークへの参加も予定しています。

【授業の進め方（予定）】

この授業は、ESD論Aと合わせて履修することが望ましいため、履修を希望する方は、ESD論Aの第1回の授業（10/5）に参加し、履修希望カードを提出してください。履修登録はこちらで行います。

- 1回 12/7 ガイダンス プラットフォームの可能性
 - 2回 12/14 フィールドから立ち現れる学び
 - 3回 12/21 持続可能な島づくりプログラム（邑久光明園）の紹介
 - 4回 1/11 農村レジリエンスプログラム（篠山農業体験）の紹介
 - 5回 1/18 フィールドワーク期間（1）
 - 6回 1/25 フィールドワーク期間（2）
 - 7/8回 2/1 総合リフレクション
- ※総合リフレクションは17:00～19:00まで行います。

以上のように、ESD部会の授業は、フィールドワーク・ワークショップ・グループワークなどを基軸に、講義や調査を組み込む形となっている。自身の当事者性を改めて確認し、多様な当事者性に触れる機会を増やすことが意図されている。

4-3 成績評価

各科目の成績評価は 100 点満点で、以下の基準で「秀」～「不可」と表記される。

90 点以上	秀 (S)
80 点以上 90 点未満	優 (A)
70 点以上 80 点未満	良 (B)
60 点以上 70 点未満	可 (C)
60 点未満	不可 (F)

成績評価方法は、担当教員に任されており、授業内の小テスト・小レポート、FINAL レポートを課すもの、授業の参加態様を評価するもの、これらを組み合わせるものなど様々である(別添「参考資料 3」 シラバス」参照)。

上記 5 区分の割合が厳密には決められていないものの、概ね「秀」は 10%を上限とする、その他においては相対評価ではなく、絶対値で評価を決定している。2020 年度 (R2) ~2023 年度 (R5 前期) の科目別成績分布の詳細は、別添「参考資料 1)」を参照のこと。

□参考：2015 年度に「神戸大学における成績評価方針」が策定され、次のような内容が決められている(平成 27 年 7 月 22 日全学教務委員会決定 同年 9 月 3 日大学教育推進委員会決定)。

- 1.すべての授業科目について明確な到達目標及び成績評価基準を明示する。
- 2.各学部及び国際教養教育院の各教育部会では開講授業科目の成績評価に関する情報を共有し、担当教員による成績評価の差を小さくするための工夫を行う。
- 3.同一の授業科目を複数開講し、複数の教員が担当する場合は、担当教員間で成績評価基準の調整を行うものとする。
- 4.«秀»は特に優れた成果を収めたとの評価であることから、履修者の概ね 10%程度を上限とすることを全学的な目安とする。ただし、各学部及び各教育部会は、特別な理由によりこの上限を適用しない授業科目を定めることができる。

※なお、「秀」の割合について 10%を超える科目が存在するが(「参考資料 1)」の表の赤字部分)、上限除去科目であり、本部会においては大きな課題という認識は少ない。

□4 コロナ対応

2020 年度(令和 2)はコロナの蔓延により全学的に開講時期が 5 月連休明けにずれこみ、さらに全面的にオンライン形式に切り替わった。本部会でも Zoom を使用したオンライン講義や BEEF、ストレージ機能を駆使してリアルタイムズーム授業、授業の補填として、YOUTUBE を使ったオンデマンドの手段を取り入れ授業を再開させた。受講する学生側の不慣れなところや WIFI などのハードの課題もあり、当初は混乱も見られたが、教授する側、受講する側も徐々に慣れ、暗中模索ながら大過なく授業運営を乗り切ることができた。講義型の授業は Zoom を使ったオンラインが集中して授業に参加できる等の感想を得たが、課題としては、画像を OFF にした際、どのような授業態度を取っているかわからない。また、移動中であつたり、受講にそぐわない環境での履修も散見された。

2021 年(令和 3)についても、ハード面の課題は若干解消されたが、2020 年に引き継ぎオンライン授業が中心となった。

2022 年度(令和 4)は教室定員を考慮しつつ基本的に対面授業に切り替えた後もオンラインツールの活用などを試みた。これまでなかった遠隔地在住のゲストをオンラインで招いての授業を行うなど、オンラインならではの新しい試みも実施できた。

また ESD コースの特徴でもあるグループワークへの取り組みは、Zoom のブレイクアウト

システムを駆使して実験的に行ったが、ブレイクアウト時の各 room の状況が把握しづらいなどの課題も見つかった。

4-5 ティーチング アシスタント・ステューデント アシスタント

TA・SA 制度は、大学院・大学に在籍する優秀な学生に対し、教育補助業務を行わせ、大学教育におけるきめ細かい指導の実現や大学生・大学院生の将来のためのトレーニング機会の提供のためのものである（神戸大学ティーチング アシスタント実施要領より）。

ESD コースでは、大人数の講義が多いこともあり、積極的に TA・SA 制度を活用し、教育補助業務を担ってもらった。過去に ESD の授業を履修したものや、他の活動において ESD に関わる機会が多い学生を採用した。言うまでもなく採用は指導教員からの承諾をもらったうえで行った。指導を行う教員は、TA・SA に業務を行わせるに当たっては、事前に当該業務に関する適切なオリエンテーションのほか、TA/SA 従事者及び指導を受けた学生からの意見聴取の仕組みの確保、教育的効果を高めるための工夫等、目的に照らした円滑な運用がなされるよう留意した。

5 教育の質の改善・向上にむけて

5-1 学生による授業評価

全学共通授業科目においては、2000 年度からすべての科目において「学生授業評価アンケート」を行ってきている。2005 年度に Web 回答方式に移行し、2008 年度から「教務情報システム」により、全学統一した仕組みが取り入れられ、全学共通授業科目もそこに統合された。その後、質問項目や実施方法の見直しがなされ、2015 年後期以降は 5 項目、5 段階評価となっている。

回答率は 2022 年度前期の場合、全部会平均が 47.6%であるのに対して ESD 部会は 51.7%と高い。2022 年後期の場合、ESD 部会平均は 41.0%と前期に比べ 10%下がっている。2023 年度前期では、ESD 部会平均は 35.7%と更に下がる結果となった。

受講者の理解度やよりよい授業に向けた課題を得るためにも、更に回収率を上げる努力が必要である。

※詳細は、別添の参考資料 2 を参照されたい。

【2022 年度前期アンケート結果】選択式・記述

【2022 年度後期アンケート結果】選択式・記述

【2023 年度前期アンケート結果】選択式・記述

●アンケート結果について

アンケートの設問ごとの内容を整理すると、以下ようになる。理解度（設問 2）、目標達成度（設問 3）、総合評価（設問 5）において大きな特徴があるわけではない。しかし、これらの数値に込められた受講学生の意図を丹念に読み込んで、今後の授業運営の改善につなげることが重要であると考えられる。

設問 1 授業に関連した週平均自己学修時間数

おおむね学修時間が「0~30 分未満」「30 分~60 分未満」に回答が集中しており、科目に関連して自主学修をする傾向にはないことがみられる。提供科目が知識積み上げ型、あるいは理解力を問う性質のものではないため自己学修の必要性を感じないものと思われる。受講生への動機付けや課題の提示における工夫によって学修意欲を高められる可能性があることを示唆す

る。部会構成員間で共有すべき実態である。

設問 2 授業内容の理解度

「授業内容が理解できたか」という設問に対しては「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が多い。科目の性質上、これまでの常識や価値観を学びなおす・学びほぐす視点や話し合いの中から他者との異質性を問うことに主を置く授業内容であるため、「理解」の深浅や程度を問うものが少なく、こうした数値に反映すると思われる。

設問 3 シラバスに掲載された目標の達成度

シラバスに掲載された目標に対しては「達成できた」「おおむね達成できた」との回答がほとんどである。シラバスの中で目標をふくめた受講者へのメッセージをより明確にすることが求められる。一方、「シラバスを読んでいない」という回答も一定数あるので受講者には講義最初の時間にシラバスに書かれた内容を含めて講義の目標や意図について明確に伝える等の工夫によって改善される可能性がある。

設問 4 授業への工夫の要望

授業の工夫に関しては、「特になし」との回答が多く、全体として要望はあまり出されてない。全体として満足しているというよりも大学の授業の内容や運営は教員のやり方次第であるとのある種の許容性が学生にはあるものと思われる。ただ、要望が少ない中でも「担当教員の受講者に対する接し方」や「授業の進み方・計画性」についての要望もあることから、教員間の意思疎通や SA や TA への事前打ち合わせを見直す必要があるだろう。

設問 5 総合判断

ほとんどの科目において「有益であった」「どちらかと言えば有益であった」との回答が多かったが、設問 2 で記述したように、授業の意図が受講者の常識や価値観を問いなおす内容であったため、一定数は理解に悩む履修生もいたと思う。

ESD コースはコース内の授業を経年で履修することでより深い理解を得る設定であるが、教養科目でもあるため、単体で科目を履修する学生も多く、全体の授業設計や位置づけの見直しが必要と思われる

●自由記述について

自由記述欄にあえて自分の意見、コメントを記入する学生はすくない。しかし敢えて記入する学生は強い意見や感想を持つものが多いため、そのコメントが受講者全体の動向を反映しているとは言えないというバイアスを勘案しつつも、概ね好意的なものが並ぶ。物事を様々な視点でみる重要性を知った。異質な人と交流することの楽しさや難しさを少し理解できた等があげられ、視野を広げ関心を深めるという教養教育の理念の実現に一定程度寄与していることがうかがえる。

5-2 ピアレビュー（授業参観）

全学共通教育のさらなる向上を図るため、ガイドラインに基づき、各教育部会においてピアレビュー（授業参観）が行われている。ESD 部会では、2022 年度にピアレビューを実施した。提出された報告書は、以下のとおりである。

【令和 4 年度後期ピアレビュー授業参観レポート（ESD 部会）】

授業科目名：ESD 生涯学習論 A

実施日時 : 10月24日(月) 5時限
実施形態 : 対面授業(教室: K601)
担当教員 : 松岡 広路教授
参観者数 : 評価・FD専門委員会より 3名

(1) 自分の授業を改善する上で、特に参考になった点

・学生との対話を重視した講義で、とくに指名した学生に名前を問うて、名前で呼びかけるスタイルは、大人数の講義ではとても新鮮でした。一定の知識を一方的に伝えるのではなく、頻繁に学生に対する問いかけを行い、あくまで学生が自ら考えるための材料を様々に提示するという講義で、意図的に教える情報(知識)を抑えているのかなという印象をもちました。一番後ろの席から参観させていただきましたが、寝たり内職したりする学生は見受けられず、学生の集中力をうまく維持できていると感心させられました。

・講義のつかみが、先週と比較して松岡先生の眼鏡が変わったことに関する質問というところから、この講義はどのように進むのだろうという期待に溢れたものとなりましたが、実際、折り紙のように畳んだ紙にメモを取るなど予想外のことで、強く講義に引き込まれる感じがしました。また、随時、教室を前後に動かされて後方の学生さんの関心も引かれていました。また、学生さんを指名してのやりとりでは、学生さんも活発に応答していて、さらに、講義の最後に短い時間とはいえ、グループディスカッションが設けられていたので、SDGs や ESD など学生さんにとっては難しいテーマだと思うのですが、そのように感じさせずに、学生さんに、もっと学びたいとの意欲を持たせることに成功されていたと思います。私は、通常の講義で、講義の終わりに学生さんからの拍手が自発的に起きる講義をほとんど見た記憶がありません。

・自分も折り紙を教材としているが、折った紙がメモ用紙になることが斬新だった。学生への質問が多く、インタラクティブな雰囲気だった。その雰囲気があったためか、様々な学部の学生が参加しているはずなのに、グループディスカッションが円滑に進んでいた。

(2) 授業者に伝えたい点及び授業改善に役立つと思われる点

・単なる質問ですが、プロジェクターに映していた講義資料は、BEEF に事前掲載あるいは授業後に掲載とかはされるのでしょうか。ノートに当たる「気づきのメモ」を学生は授業後に提出していましたが、これは次回の講義の際に返却されるのでしょうか。

・素晴らしい講義見学をさせていただきまして誠にありがとうございました。講義の終わりにご挨拶をしようと思ったのですが、質問の学生さんが一杯おられましたので、遠慮させていただきました。

・一部の小さい文字が、一番後ろからは読めなかった。

(3) 評価・FD専門委員会や教養教育院に伝えたいメッセージ

・特にありません。

・K601 は後ろから前まで遠いので、途中で2ヶ所程度左右に Display があるとよい。

6 ESD 部会の課題と今後の展望

各教育部会では、毎年、「自己点検 評価報告書」をまとめ、毎年の教育状況を評価検討している。これはその年の科目担当者が、送られてくる「自己点検 評価シート」およびシラバス、授業評価アンケート結果、成績結果等をもとに作成し、部会長がとりまとめるものである。ここでは、上述した諸課題とともに、2020年度(令和)から2023年度(令和5)前期までの3か年分のもの(参考資料 5)を参考に、課題と展望を整理する。

6-1 担当教員のコミュニティが閉鎖的になっていないか？

すでに指摘したように、関係教員の数はじり貧状態で、リーダーシップを握る教員も固定化している。これは、ESDとしての授業間の整合性・一貫性を生む上では効果的に作用した部分もあるが、学問をする場としては、各授業の個性とそれらの差異によって学生が迷い、批判的かつ創造的に物事を考えるようになる契機を削ぐものでもある。また、ESD関係の科目を維持し、有効な学びが生まれるには、いうまでもなく多様な専門性の総合化が求められる。いかに担当教員の数を増やし、「弱い紐帯」のなかで教員コミュニティを活性化するかは、大きな課題である。

6-2 クォーター制・少ない授業コマ数に適応できているか？

ESDコース創設時には、 Semester制で概ね14コマで授業が構成されていたが、クォーター制になり、授業の構成が難しくなっている。少ないコマ数で各授業のねらいを実質化するための工夫が求められる。特にフィールドワークやスタディツアープログラムを授業のコマで代替できず、授業枠に入れることが難しくなっている。これを解決するための具体的な方策が求められる。

6-3 めざすのはSD理解か？ ESD理解か？

ESDをテーマにしているものの、SD（持続可能な開発）の理解が柱になる授業が多くなり始めている。あらゆる人のエンパワメント（積極的な関与）が生まれ、SDを推進するコミュニティ・集団づくりの重要性を体感・理解する契機となる授業の工夫が求められる。

6-4 深い学びを提供できているか？

ESDは、社会・人間・文化のこれまでのあり様の変容が期待される活動であるが、既存の社会システム・技術・ライフスタイルを深く問う時間が丁寧に取れているだろうか。授業後にこうした問いを深めたくなるような魅力的な授業内容・形態が求められる。

6-5 多様な学生のニーズに応えられているか？

クロスカリキュラムの構造的な課題ともいえるが、ESDに深く関心のある学生と、極端に言うと、単位欲しさに気軽に受講する学生が、混在している。両者がミックスされた集団での授業の方法についてさらに具体的な対策が求められる。教育カリキュラムでそれを実現するのではなく、学生の自由な学びの展開に期待をする授業づくりも必要かもしれない。

6-6 実践現場との接触を促す仕組みになっているか？

持続可能な社会づくりを具体的に推進している外部の組織や団体およびその活動に触れる契機を与えるのが、本授業群のねらいのひとつであるが、果してうまく機能しているか？ 国連大学によって認証されている市民団体ネットワーク、「RCE兵庫・神戸」のスタディツアープログラムや、HCセンターを拠点とする、ユース・市民のESDプロジェクトの様々な事業に、学生が気楽に接続する仕組みも、さらに開発される必要がある。

6-7 少数精鋭か？ 神戸スタンダードか？

クロスカリキュラム制を見直す時期に来ている。神戸大学 ESD コースは、ESD を実質化する人材の育成を目的に、結果として「少数精鋭」を育成している感がある。それに対して、教養教育における ESD は、すべての本学学生が ESD への親密さ・接近にやすさを感じ、専門教育や学外活動と連動させて持続可能な社会づくりの担い手となることを期待するものである。「二兎を追ってきた」または「一粒で二度美味しい」をねらいとしたクロスカリキュラム制を見直す必要があるのではないかと考えている。

6-8 展望 1：教養教育の枠組みでの拡充を

2023 年度の神戸大学 ESD コース専門委員会において、本学教養教育の改革が実施に踏み切られる 2025 年（令和 7 年）度に、クロスカリキュラム制を避けるため、従来の ESD コースを廃止し、教養教育における ESD の充実に協力する、という方向性が認められた。これまで卒業時に発行していた修了認証を、教養教育の ESD 関連科目の所定単位を充足した段階で発行する。また、ここでいう「ESD 関連科目」は、従来の ESD の教育区分に限定されるのではなく、他の区分の授業科目も含めるとする。具体的な制度設計は、関係者との協議の上で行われるが、教養教育としての ESD を充実させる方向性を企図するものである。

6-9 展望 2：中間支援組織との連携によるサービスラーニングを

多層多元的な社会問題の総合化の中で進められる ESD においては、大学での授業を多様化・多元化することも重要であるが、むしろ、多様な外部の関連実践および学生各人の新たな学びの展開を促すことに力点が置かれるべきであろう。それを実質化するには、大学の授業で教員らがそれを担うのではなく、ESD プラットフォーム WILL や RCE 兵庫・神戸などの、学びと実践をつなぐプラットフォーム型の中間支援組織と連携して、ESD 授業科目の全体プランを組み立てることが求められるのではないか。人材・教材のみならず、コーディネート機能のアウトソーシングも検討し、大学および大学教育のスリム化に対応していく必要がある。

第2部 外部評価報告

1. 外部評価委員会の開催・次第

日 時 令和6年(2024年)2月20日(火) 17時00分~18時30分

方 式 ビデオ会議(ZOOM)

出席者

赤尾 勝己 関西大学文学部 教授

原田 正樹 日本福祉大学 学長

以下、学内委員

伊藤 真之 人間発達環境学研究科 教授

稲原 美苗 ESD 部会部会長 人間発達環境学研究科 准教授

津田 英二 ESD 部会幹事 人間発達環境学研究科 教授

原口 剛 人文学研究科 准教授

松岡 広路 ESD コース専門委員会委員長 人間発達環境学研究科 教授

鴨谷 真 ESD 総合コーディネーター

当日の進行次第

17時00分 部会長よりのあいさつ

17時10分 自己紹介

17時15分 「自己点検・報告書」の概要説明

18時00分 質疑 委員よりのご意見

18時20分 実務上のお願い

18時30分 閉会のあいさつ、終了

2. 外部評価委員会抄録

稲原美苗部会長の挨拶後、主たる授業担当者の松岡広路より、第1部の「自己点検・評価書」に則って報告がされた。構成は以下のとおりである。

神戸大学の教育目標／神戸大学の教養教育／ESD 部会の特徴／授業の実態／
教育の質の改善・向上に向けての取り組み／ESD 部会の課題と今後の展望

また、直面する課題について、以下の内容が報告された。

①担当教員のコミュニティが閉鎖的になっていないか？

近年、関係教員の数も減少し、リーダーシップを握る教員も固定化している。これは、ESD としての授業間の整合性・一貫性を生む上では効果的に作用した部分もあるが、学問をする場としては、各授業の個性とそれらの差異によって学生が迷い、批判的かつ創造的に物事を考えるようになる契機を削ぐものでもある。また、ESD 関係の科目を維持し、有効な学びが生まれるには、いうまでもなく多様な専門性の総合化が求められる。いかに担当教員の数を増やし、「弱い紐帯」のなかで教員コミュニティを活性化するかは、大きな課題である。

②クォーター制・少ない授業コマ数に適応できているか？

ESD コース創設時には、 Semester 制で概ね 14 コマで授業が構成されていたが、クォーター制になり、授業の構成が難しくなっている。少ないコマ数で各授業のねらいを実質化するための工夫が求められる。特にフィールドワークやスタディツアープログラムを授業のコマで代替できず、授業枠に入れることが難しくなっている。これを解決するための具体的な方策が求められる。

③めざすのは SD 理解か？ ESD 理解か？

ESD をテーマにしているものの、SD（持続可能な開発）の理解が柱になる授業が多くなり始めている。あらゆる人のエンパワメント（積極的な関与）が生まれ、SD を推進するコミュニティ・集団づくりの重要性を体感・理解する契機となる授業の工夫がさらに必要ではないか。

④深い学びを提供できているか？

ESD は、社会・人間・文化のこれまでのあり様の変容が期待される活動であるが、既存の社会システム・技術・ライフスタイルを深く問う時間が丁寧に取れているだろうか。授業後にこうした問いを深めたくなるような魅力的な授業内容・形態が求められる。

⑤多様な学生のニーズに応えられているか？

クロスカリキュラムの構造的な課題ともいえるが、ESD に深く関心のある学生と、極端に言うとは、単位欲しさに気軽に受講する学生が、混在している。両者がミックスされた集団での授業の方法についてさらに具体的な対策が求められる。教育カリキュラムでそれを実現するのではなく、学生の自由な学びの展開に期待をする授業づくりも必要かもしれない。

⑥実践現場との接触を促す仕組みになっているか？

持続可能な社会づくりを具体的に推進している外部の組織や団体およびその活動に触れる契機を与えるのが、本授業群のねらいのひとつであるが、果してうまく機能しているか？ 国連大学によって認証されている市民団体ネットワーク、「RCE 兵庫-神戸」のスタディツアープログラムや、HC センターを拠点とする、ユース・市民の ESD プロジェクトの様々な事業に、学生が気楽に継続する仕組みも、さらに開発される必要がある。

⑦少数精鋭か？ 神戸スタンダードか？ クロスカリキュラム制を見直すべきか？

神戸大学 ESD コースは、ESD を実質化する人材の育成を目的に、結果として「少数精鋭」を育成している感がある。それに対して、教養教育における ESD は、すべての本学学生が ESD への親密さ・接近にやすさを感じ、専門教育や学外活動と連動させて持続可能な社会づくりの担い手となることを期待するものである。「二兎を追ってきた」または「一粒で二度美味しい」をねらいとしたクロスカリキュラム制を見直す必要があるのではないかと考えている。

さらに、今後の展望について、以下の内容が報告された。

①教養教育の枠組みにおける拡充

2023年度の神戸大学ESDコース専門委員会において、本学教養教育の改革が実施に踏み切られる2025年（令和7年）度に、クロスカリキュラム制を避けるため、従来のESDコースを廃止し、教養教育におけるESDの充実に協力する、という方向性が認められた。これまで卒業時に発行していた修了認証を、教養教育のESD関連科目の所定単位を充足した段階で発行する。また、ここでいう「ESD関連科目」は、従来のESDの教育区分に限定されるのではなく、他の区分の授業科目も含めるとする。具体的な制度設計は、関係者との協議の上で行われるが、教養教育としてのESDを充実させる方向性を企図するものである。

②中間支援組織との連携によるサービスラーニングの充実

多層多元的な社会問題の総合化の中で進められるESDにおいては、大学での授業を多様化・多元化することも重要であるが、むしろ、多様な外部の関連実践および学生各人の新たな学びの展開を促すことに力点が置かれるべきであろう。それを実質化するには、大学の授業で教員らがそれを担うのではなく、ESDプラットフォームWILLやRCE兵庫-神戸などの、学びと実践をつなぐプラットフォーム型の中間支援組織と連携して、ESD授業科目の全体プランを組み立てることが求められるのではないか。人材・教材のみならず、コーディネート機能のアウトソーシングも検討し、大学および大学教育のスリム化に対応していく必要がある。

<質疑応答>

以上のプレゼンをふまえて以下のような質疑が行われた。

- ①原田先生より、ESDプラクティショナー制度の課題について質問があり、松岡委員長より演習科目が学部によって取りにくいことが回答された。
- ②原田先生より、この外部評価の位置づけは、あくまでESD部会に限った評価の位置づけなのか？ それとも、神戸大学としての枠組みを考える上での位置づけなのか？ という質問があ

り、松岡委員長より、外部評価は大学としての枠組みであることが回答された。

- ③原田先生より、教養教育院と国際人間科学部との違いについての質問があり、松岡委員長より大学の機構について適切に回答がなされた。
- ④赤尾先生より、ESD 生涯学習論の位置づけについて質問があり、松岡委員長より、社会教育主事資格取得に必要な科目でもあり、そのために、資格取得のために履修する学生と、単に教養科目の一つとして、1年次の1単位として履修する学生がおり、取り組みに温度差がある旨の回答がされた。
- ⑤赤尾先生より、社会教育主事資格取得のカリキュラムであれば、7~8 コマは少ないのではないかと、また評価がレポートと出欠を主に決めていることに対して、テストなどによる知識を問う評価が妥当ではないかという質問があり、松岡委員長より授業のコマ数については、2つの授業を合わせて生涯学習概論相当の科目としてあり、資格要件に合っているとの回答がなされた。また、評価に関しては、すでに様々不空しているが、今後さらにブラッシュアップしていく予定であるとの回答がなされた。
- ⑥赤尾先生より、授業の開講場所に六甲ホールとあるが、どういう場所なのか？ また授業スケジュールにはあるが、シラバスに記載がないのはなぜか？ という質問があり、松岡委員長から、六甲ホール（百年記念館）の大講堂や会議室は、全学教職員の共用施設として、研究会・研修会・シンポジウム・講演会・会議等に使用でき、履修生が200人近いESD基礎科目では、教室でのワークショップに限界があること、また、普段使っていない異質の空間でのワークショップを体現してもらいたいという意図で、使用しているとの回答がなされた。また、シラバスに記載がないことについては、履修生の人数がシラバス時点では確定しておらず、少数になった場合は通常の教室を使用することが前提なので、記載できないという事情が説明された。
- ⑦原田先生より、クロスカリキュラムについて、一般的に複数の学習プログラムがクロスすることを想定した科目が設定されなければならないが、そうした授業科目はどれにあたるのかという質

問があり、松岡委員長より、ESD の各授業は、専門性の違う様々な学部の学生が履修する中で、学部を超えた教員や外部登壇者が授業を担当しており、本授業のすべてが、クロスカリキュラムを実質化しえるものと位置付けているとの回答がなされた。

⑧原田先生より、フィールドワーク先の選定と、コーディネーターの重要性について質問があり、松岡委員長より、フィールドワーク先については、教員が実践しているフィールドのほか、ESD 推進ネットひょうご神戸（RCE 兵庫神戸）と連携し進めているが、コロナ禍を過ぎて、良質なフィールドの確保が課題となっている。また現在のコーディネーター体制には限界が来ており、コーディネーターを支える仕組みとして、大学と外部協力団体（フィールドワーク先）とのコーディネートを受け持つ中間的な仕組み（組織）が必要である旨、回答された。具体的には、人間発達環境学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの創発した「ESD プラットフォーム WILL」との連携の可能性が示された。

⑨赤尾先生より、学内の教員同士で授業評価を行う仕組み、ピアレビューについて、非常に良い仕組みであるとの評価を頂いた

2. 外部評価委員からの「報告書」

☆赤尾勝己「外部評価委員報告書」

提出：令和6年2月21日

意見

○特に優れている点

- ・学生による授業評価でアンケートの内容を検証して、よりよい授業づくりを心がけている。
- ・同僚による授業のピアレビューを導入している。こうした複数の担当教員間の共同性は他の大学ではあまり見られない。大いに評価できる。

○特に改善を要する点

・成績評価について

「ESD 生涯学習論 A」や「ESD 生涯学習論 B」は、社会教育主事資格取得のための科目にもなっている。それにも関わらず、成績評価が出席(50%)、レポート(50%)というのは甘いと思う。資格を与えるのであれば、一定水準の学力に到達した学生に単位を与えるのが筋ではないか。これらの科目を教養科目としたことによる弊害が表れている。

・授業期間について

クォーター制であるために、授業回数が7回と短い。特に、フィールドワークの設定ではかなり無理をしている観がある。前期・後期各15回という設定の方がよい。

○全体的講評

- ・全体として非常に意欲的な授業を展開しようとしている意図はわかるが、やや詰め込みすぎている。同一科目が同時に教養科目と資格取得科目になっていることで、二兎を追っており中途半端な観がある。
- ・100名を超える履修者を一度にグループワークをさせたりフィールドワークに行かせたりしている。もっと少人数にして、丁寧に学生たちの学びによる変容を見ていったらどうか。
- ・令和7年度から、この科目が専門教育科目になるという方向性に賛同したい。

以上

☆原田正樹「外部評価委員報告書」

提出：令和6年2月20日

意見

○特に優れている点

貴大学の「ESD 教育」が大学教育目標、教養教育の目標（神戸スタンダード）などと体系的かつ構造的に位置づけられ、ESD 部会を中核にして非常に創意工夫された教育実践が展開されていること。具体的には社会課題を理解する（SD）にとどまらない、学生の学びとしての営み（ESD）を踏まえたシラバスになっている。それらが担当教員個人の授業実践ではなく、部会としてのマネジメントのもとに、例えば FD（教員相互の授業観察と評価など）の実施や学生評価を踏まえて質の向上を図っていることも高く評価される点である。

○特に改善を要する点

伝統ある貴大学の教養教育（神戸スタンダードの3つの能力）を具現化していくために ESD が重要であることを踏まえ、この教育実践が持続可能なものにしていくために、①体制整備が重要であること。部会の活性化、ESD 総合コーディネーターの拡充、大学外の中間支援組織との連携などの検討が必要である。②シラバスの改善が求められること。十分な学修内容を確保するための時間数、期間の確保。成績評価の方法。より多くの専門知が重なり合うクロスカリキュラムの工夫。③フィールドワークの充実。フィールドワーク先の開拓、コーディネーター、プログラム開発、リフレクションの実施など大学と中間支援組織の連携が求められる。

○全体的講評

評価者があえて「ESD 教育」と表記したのは、貴学の教養教育としての視点と ESD を推進するリーダー層や研究者の養成も含めての総称である。今回提出された『ESD 部会 自己点検・評価

書』には、この幅広い ESD の学びを効果的に実施していくための「課題と今後の展望」が具体的に記載されている。ここで述べられている 9 点は、貴大学の課題としてだけでなく、これからの日本における ESD のあり方を構想するときに、非常に示唆に富む内容である。

この教育分野を先駆的かつ組織的に取り組まれてきた貴大学、ESD 部会ならではの経験知、教育実践知として大変参考になるものである。

以上

別添 <参考資料>

参考資料 1) 履修者数・成績分布	2
参考資料 2) アンケート結果	
【2022 年度前期アンケート結果】選択式・記述	6
【2022 年度後期アンケート結果】選択式・記述	8
【2023 年度前期アンケート結果】選択式・記述	10
参考資料 3) シラバス（令和 4 年度）	12

2020年度（令和2）履修者（学部別）数ならびに成績分布

単位数	開講授業科目名称	学生所属	合計		主担当教員	担当教員名01	成績				
			履修	取消			秀	優	良	可	不可
							100~90	89~80	79~70	69~60	59~0
1	ESD基礎(持続可能な社会づくり)B	合計	26	1	松岡 広路		0%	58%	27%	0%	15%
		法学部 昼間主コース	1	0							
		理学部	3	0							
		医学部	1	0							
		工学部	4	0							
		海事科学部	2	0							
		経営学部 昼間主コース	2	1							
		文学部	1	0							
1	阪神・淡路大震災A	合計	100	3	滝口 哲也	北後 明彦	9%	25%	45%	17%	4%
		文学部	40	3							
		国際人間科学部	53	0							
		国際文化学部	1	0							
		発達科学部	2	0							
		経済学部 昼間主コース	1	0							
		経営学部 昼間主コース	2	0							
		工学部	1	0							
1	ESD基礎(持続可能な社会づくり)1	合計	156	5	松岡 広路		3%	83%	11%	3%	1%
		国際人間科学部	44	1							
		文学部	2	0							
		法学部 昼間主コース	14	0							
		経済学部 昼間主コース	14	1							
		経営学部 昼間主コース	10	0							
		理学部	8	0							
		医学部	29	1							
		工学部	23	1							
		農学部	6	0							
		海事科学部	6	1							
1	ESDボランティア論	合計	184	16	清野 未恵子		6%	72%	11%	4%	6%
		文学部	3	0							
		国際人間科学部	4	2							
		法学部 昼間主コース	15	1							
		経済学部 昼間主コース	21	2							
		経営学部 昼間主コース	27	0							
		理学部	5	4							
		医学部	58	0							
		工学部	33	5							
		海事科学部	9	0							
		農学部	9	2							
1	ESD生涯学習論A	合計	175	22	松岡 広路		8%	65%	21%	1%	6%
		経営学部 昼間主コース	17	3							
		文学部	14	0							
		国際人間科学部	29	0							
		法学部 昼間主コース	9	0							
		経済学部 昼間主コース	18	2							
		理学部	10	2							
		医学部	29	6							
		工学部	26	4							
		農学部	8	1							
		海事科学部	15	4							
1	ESD論(持続可能な社会づくり)2)A	合計	165	22	清野 未恵子		10%	58%	22%	2%	7%
		法学部 昼間主コース	9	2							
		文学部	6	0							
		国際人間科学部	37	3							
		経済学部 昼間主コース	19	4							
		経営学部 昼間主コース	16	1							
		理学部	9	0							
		医学部	38	4							
		工学部	18	5							
		農学部	3	2							
		海事科学部	10	1							
1	ESD生涯学習論B	合計	143	54	松岡 広路		9%	58%	15%	5%	13%
		農学部	8	0							
		文学部	11	0							
		国際人間科学部	23	5							
		法学部 昼間主コース	12	1							
		経済学部 昼間主コース	20	7							
		経営学部 昼間主コース	14	3							
		理学部	7	6							
		医学部	9	22							
		工学部	29	8							
		海事科学部	10	2							
1	ESD論(持続可能な社会づくり)2)B	合計	130	55	清野 未恵子		8%	64%	11%	5%	13%
		農学部	3	0							
		文学部	3	0							
		国際人間科学部	27	8							
		法学部 昼間主コース	10	3							
		経済学部 昼間主コース	24	3							
		経営学部 昼間主コース	15	5							
		理学部	11	1							
		医学部	14	18							
		工学部	16	14							
		海事科学部	7	3							

2021年度（令和3）履修者（学部別）数ならびに成績分布

単位数	開講授業科目名称	学生所属	合計		主担当教員	担当教員名01	成績				
			履修	取消			秀	優	良	可	不可
							100~90	89~80	79~70	69~60	59~0
1	阪神・淡路大震災A	合計	43	1	滝口 哲也	飯塚 教	7.0%	51.2%	20.9%	11.6%	9.3%
		文学部	9	0							
		国際人間科学部	25	1							
		発達科学部	2	0							
		経済学部 昼間主コース	3	0							
		経営学部 昼間主コース	1	0							
		工学部	2	0							
1	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	合計	190	5	松岡 広路	清野 未恵子	4.3%	56.2%	34.1%	3.2%	2.2%
		経営学部 昼間主コース	19	0							
		文学部	3	0							
		国際人間科学部	80	2							
		法学部 昼間主コース	8	0							
		経済学部 昼間主コース	8	0							
		理学部	4	0							
		医学部	45	2							
		工学部	1	0							
		農学部	13	0							
1	ESDボランティア論	合計	155	1	清野 未恵子	松岡 広路	4.7%	78.7%	12.0%	3.3%	1.3%
		医学部	53	0							
		文学部	2	0							
		国際人間科学部	65	0							
		法学部 昼間主コース	4	0							
		経済学部 昼間主コース	7	0							
		経営学部 昼間主コース	12	0							
		工学部	1	0							
		農学部	6	1							
		海洋政策科学部	5	0							
1	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	合計	103	3	清野 未恵子	松岡 広路	2.0%	37.6%	54.5%	4.0%	2.0%
		文学部	2	0							
		国際人間科学部	63	2							
		法学部 昼間主コース	3	0							
		経済学部 昼間主コース	3	0							
		経営学部 昼間主コース	6	0							
		理学部	1	0							
		医学部	15	0							
		工学部	1	1							
		農学部	3	0							
1	ESD生涯学習論A	合計	92	1	松岡 広路	清野 未恵子	6.7%	41.1%	48.9%	1.1%	1.1%
		文学部	12	0							
		国際人間科学部	49	0							
		法学部 昼間主コース	1	0							
		経営学部 昼間主コース	6	1							
		理学部	6	0							
		医学部	11	0							
		工学部	1	0							
		農学部	1	0							
		海洋政策科学部	4	0							
1	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	合計	87	3	清野 未恵子	松岡 広路	7.1%	42.4%	35.3%	11.8%	3.5%
		理学部	1	0							
		医学部	7	1							
		工学部	1	0							
		農学部	4	0							
		海洋政策科学部	6	1							
		経営学部 昼間主コース	4	0							
		文学部	2	0							
		国際人間科学部	58	0							
		法学部 昼間主コース	3	0							
1	ESD生涯学習論B	合計	86	8	松岡 広路	清野 未恵子	8.4%	56.6%	24.1%	7.2%	3.6%
		経営学部 昼間主コース	0	1							
		文学部	13	0							
		国際人間科学部	46	2							
		法学部 昼間主コース	1	0							
		経営学部 昼間主コース	7	0							
		理学部	7	0							
		医学部	5	3							
		工学部	1	0							
		農学部	0	1							
海洋政策科学部	6	0									
海事科学部	0	1									

2022年度（令和4）履修者（学部別）数ならびに成績分布

単位数	開講授業科目名称	学生所属	合計		主担当教員	担当教員名01	担当教員名02	成績				
			履修	取消				秀	優	良	可	不可
								100~90	89~80	79~70	69~60	59~0
1	阪神・淡路大震災B	合計	33	0	飯塚 敦			0.0%	39.4%	33.3%	6.1%	21.2%
		文学部	7	0								
		国際人間科学部	22	0								
		経済学部 昼間主コース	2	0								
		理学部	1	0								
		工学部	1	0								
1	阪神・淡路大震災と都市の安全	合計	51	1	飯塚 敦			2.0%	25.5%	45.1%	15.7%	11.8%
		国際人間科学部	19	1								
		法学部 昼間主コース	20	0								
		医学部	12	0								
		工学部	1	0								
1	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	合計	100	6	清野 未恵子	松岡 広路	喜屋武 享	13.3%	57.1%	21.4%	6.1%	2.0%
		文学部	1	0								
		国際人間科学部	40	2								
		法学部 昼間主コース	3	1								
		経済学部 昼間主コース	3	0								
		経営学部 昼間主コース	7	0								
		理学部	3	0								
		医学部	29	3								
		工学部	7	0								
		農学部	1	0								
		海洋政策科学部	6	0								
		1	ESDボランティア論	合計	89	4	清野 未恵子	松岡 広路	喜屋武 享	8.8%	64.7%	17.6%
文学部	4			0								
国際人間科学部	20			2								
法学部 昼間主コース	2			0								
経営学部 昼間主コース	7			0								
理学部	2			0								
医学部	29			2								
工学部	1			0								
農学部	3			0								
海洋政策科学部	1			0								
1	ESD生涯学習論A	合計	54	1	松岡 広路	喜屋武 享	清野 未恵子	0.0%	43.4%	47.2%	7.5%	1.9%
		経済学部 昼間主コース	1	0								
		文学部	10	0								
		国際人間科学部	11	0								
		法学部 昼間主コース	3	0								
		経営学部 昼間主コース	5	0								
		理学部	10	0								
		医学部	4	0								
		工学部	2	1								
		農学部	3	0								
海洋政策科学部	5	0										
1	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	合計	34	0	清野 未恵子	松岡 広路	喜屋武 享	0.0%	50.0%	46.9%	3.1%	0.0%
		文学部	1	0								
		国際人間科学部	22	0								
		経済学部 昼間主コース	1	0								
		理学部	1	0								
		医学部	3	0								
		農学部	3	0								
		海洋政策科学部	2	0								
海事科学部	1	0										
1	ESD生涯学習論B	合計	47	3	松岡 広路	喜屋武 享	清野 未恵子	0.0%	61.7%	29.8%	4.3%	4.3%
		海洋政策科学部	4	0								
		文学部	9	0								
		国際人間科学部	12	2								
		法学部 昼間主コース	2	0								
		経済学部 昼間主コース	1	0								
		経営学部 昼間主コース	2	0								
		理学部	8	0								
		医学部	4	0								
		工学部	2	1								
		農学部	3	0								
1	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	合計	30	5	清野 未恵子	松岡 広路	喜屋武 享	0.0%	65.5%	34.5%	0.0%	0.0%
		海洋政策科学部	2	0								
		文学部	1	0								
		国際人間科学部	19	2								
		法学部 昼間主コース	0	1								
		経済学部 昼間主コース	1	0								
		経営学部 昼間主コース	0	1								
		理学部	1	0								
		医学部	3	0								
		農学部	2	1								
海事科学部	1	0										

2023年度（令和5）前期 履修者（学部別）数ならびに成績分布

単位数	開講授業科目名称	学生所属	合計		主担当教員	担当教員名01	担当教員名02	成績				
			履修	取消				100~90	89~80	79~70	69~60	59~0
1	阪神・淡路大震災B	合計	12	0	近藤 民代	飯塚 敏		0.0%	8.3%	58.3%	16.7%	16.7%
		文学部	2	0								
		国際人間科学部	4	0								
		経済学部 昼間主コース	3	0								
		経営学部 昼間主コース	1	0								
		工学部	1	0								
		農学部	1	0								
1	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	合計	194	40	松岡 広路	喜屋武 享	清野 未恵子	0.0%	27.8%	50.0%	11.7%	10.5%
		工学部	15	0								
		農学部	8	1								
		海洋政策科学部	4	0								
		法学部 昼間主コース	0	1								
		文学部	1	0								
		国際人間科学部	32	5								
		経済学部 昼間主コース	58	23								
		理学部	17	1								
		医学部	59	9								
		1	ESDボランティア論	合計	170	37	清野 未恵子	松岡 広路	喜屋武 享	0.0%	24.4%	48.2%
工学部	2			0								
文学部	3			0								
国際人間科学部	44			4								
法学部 昼間主コース	2			0								
経済学部 昼間主コース	21			21								
経営学部 昼間主コース	8			0								
理学部	17			1								
医学部	61			9								
農学部	7			0								
海洋政策科学部	5			2								
1	阪神・淡路大震災と都市の安全	合計	122	4	近藤 民代	飯塚 敏		8.2%	28.7%	55.7%	5.7%	1.6%
		文学部	3	0								
		国際人間科学部	71	3								
		法学部 昼間主コース	23	0								
		経営学部 昼間主コース	3	0								
		医学部	15	0								
		工学部	5	1								
		農学部	2	0								

■令和4年度前期 ESD教育委員会授業振り返りアンケート結果

◇選択式回答結果

時間 割 コード	開講科目名称	担当教員	担当教員 所属	曜日	時 限	開講区分	教育部会	【設問1】この授業に関して、平均して毎週どれくらい自己学修(予習、復習を含む)をしましたか。 1. 180分以上、2. 120分以上-180分未満、 3. 60分以上-120分未満、4. 30分以上-60分未満、 5. 0-30分未満						【設問2】この授業の内容はよく理解できましたか。 1. そう思う、2. どちらかといえばそう思う、3. どちらともいえない、 4. どちらかといえばそう思わない、5. そう思わない						【設問3】シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。 1. 十分に達成できた、2. ある程度達成できた、3. どちらともいえない、 4. あまり達成できなかった、5. 達成できなかった、6. 到達目標が分からない、 7. シラバスを読んでいない							【設問5】この授業でより工夫してほしい事項があればチェックしてください(複数可)。 1. 担当教員の授業への熱意、2. 担当教員の学生に対する接し方、 3. 担当教員の話し方、4. BEEF等の学修支援システムの内容、板書、教材等、5. シラバス、 6. 授業の進み方・計画性、7. 特になし							【設問7】総合的に判断して、この授業は有益であったと思いますか。 1. 有益であった、2. どちらかといえば有益であった、 3. どちらともいえない、4. どちらかといえば有益ではなかった、 5. 有益ではなかった											
								回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計				
1U098	阪神・淡路大震災B	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第1クォーター	ESD			3	5	1	9	4	3	2					9	1	7		1					9						1	8	9	5	2	2				9
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD			4	13	9	26	13	10	1	2				26	6	15	1			2	2	26					1		1	24	26	18	8					26
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵子	人間発達環	水	5	第2クォーター	ESD			2	8	16	40	12	23	1	2	2		40	6	23	7	1	1		2	40	1	5	4	3		6	28	47	20	10	5	2	3		40		
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵子	人間発達環	月	5	第2クォーター	ESD			2	10	18	30	9	13	7		1		30	6	15	8				1	30	2	8	4	3	1	7	18	43	14	8	3	2	3		30		

時間 割 コード	開講科目名称	担当教員	担当教員 所属	曜日	時 限	開講区分	回答率	【設問1】						【設問2】						【設問3】							【設問5】							【設問7】								
								回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	
1U098	阪神・淡路大震災B	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第1クォーター	27%	0%	0%	33%	56%	11%	9	44%	33%	22%	0%	0%	9	11%	78%	0%	11%	0%	0%	0%	9	0%	0%	0%	0%	0%	11%	89%	9	56%	22%	22%	0%	0%		9
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	52%	0%	0%	15%	50%	35%	26	50%	38%	4%	8%	0%	26	23%	58%	4%	0%	0%	8%	8%	26	0%	0%	0%	4%	0%	4%	92%	26	69%	31%	0%	0%	0%		26
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵子	人間発達環	水	5	第2クォーター	50%	0%	5%	20%	40%	35%	40	30%	58%	3%	5%	5%	40	15%	58%	18%	3%	3%	0%	5%	40	2%	11%	9%	6%	0%	13%	60%	47	50%	25%	13%	5%	8%		40
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵子	人間発達環	月	5	第2クォーター	66%	0%	0%	7%	33%	60%	30	30%	43%	23%	0%	3%	30	20%	50%	27%	0%	0%	0%	3%	30	5%	19%	9%	7%	2%	16%	42%	43	47%	27%	10%	7%	10%		30

■令和4年度前期 ESD教育部会授業振り返りアンケート結果

◇記述式回答結果

設問4:この授業を振り返って、自らの学修に関する感想があれば書いてください。

時間割コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
1U098	阪神・淡路大震災B	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第1クォーター	ESD	毎回の課題に真面目に取り組むことで、授業内容の理解が深まったと思う。災害を自分事としてとらえることで授業参加への意欲が高まったようにしっかりと学習を行えたように思う。
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	私は神戸出身ではないので、阪神・淡路大震災について詳しく学んだことはなかったが、この授業を通して規模の大きさや与えた影響を知ることができた。また、震災は様々な学問分野と関係するものなのだということが分かり興味深かった。
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	震災のことを様々な角度から学修できた。
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	非常に楽しく授業を進めることができた。SDGsやESDについての考え方なども、先生方の話し方、または熱意から伝わってくるものがあり、有意義な時間だった。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	グループ活動をしかりと頑張ることができた。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	フィールドワークで感じたこと、発見したことをグループで協力してまとめることができた。また、発表会では自分が疑問に思ったことを積極的に質問することができた。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	自分自身の考えを深めるきっかけになった。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	考えて意見をまとめることは今まで少し苦手だったが、毎回毎回正面から向き合えた。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	自分だけでは思いつかない発想がたくさん聞けた。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	様々な学部の人たちと交流することができた。また、ボランティアにも積極的に参加することができた。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	ボランティアやESDに関する様々なことについて、じっくり考えられるとても良い授業でした。授業を通して考えたことや学んだことを今後のボランティア活動につなげたいです。そして、今後もボランティアやESDについて考え続けようと思います。先生方やお話をしてくださった方々、周りの友達の意見を聞くことで、自分1人ではたどりつかなかったような考えをもつことができました。この授業を受講して本当に良かったです。大学生生活のなかで忘れられない授業になると思います。本当にありがとうございました。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	グループでしっかりと話し合うことができてよかった。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	考える時間が多かった。じっくり向き合えたと思う。

◇記述式回答結果

設問6:この授業の良かった点について、特記すべき内容があれば書いてください。また、授業をより良くするための意見・要望があれば書いてください。

時間割コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
1U098	阪神・淡路大震災B	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第1クォーター	ESD	テスト期間にテストや分量多めのレポート課題がなかったのが助かった。毎回講師が異なることで、毎週新鮮な気持ちで話を聞くことができ、それぞれの分野の専門家から直々に話を聞けるのは貴重な体験でありがたかった。また、授業内容の録画があったため聞き逃した部分をじっくり聞き直
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	オンデマンドで映像が残り、後から見て確認しながら課題の解答を考えることができたのが良かった。
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	阪神淡路大震災という災害を起点として、様々な視点から災害を学べる
2U098	阪神・淡路大震災と都市の安全	飯塚 敦	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	後で振り返るために授業の動画を見ることができたのが良かった。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	パーソナルスペースを割ってぐいぐい話をされたのでしんどかったです。もう少しパーソナルスペースを考慮してほしいです。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	いろいろな学部の人と話し合いながらできるのがよかった。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	話し合いの時間をもっと設けてほしいかった
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	ポスターを見る回の時、違う二つのテーマのポスターは見れたが、自分と同じテーマのポスターも見なかった
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	いろいろな人の考え方を知れたこと。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	教員が話すときマスクをわざわざ外す動作が気になりました。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	学生に何を望みますか？
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	・グループでフィールドワークに行き、グループのメンバーで協力して考えをまとめていくという作業があった点 ・自分と違う学部の人と交流できる点
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	教授が近距離で大声で話す、密接してグループワークをする、マイクを使いまわすなど、コロナ対策への配慮に欠ける場面が目立ったので、もう少し気を遣っていただけたら嬉しいなと思った。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	特になし。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	同じ学部の友達とばかり話すので、他学部の人と意見を交わすことができて良かった。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	先生方の熱意がすごかった。
2U111	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	清野 未恵	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	実際にフィールドワークに出向く点。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	教授が近距離で大声で話す、密接してグループワークをする、マイクを使いまわすなど、コロナ対策への配慮に欠ける場面が目立ったので、もう少し気を遣っていただけたら嬉しいなと思った。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	・自分と異なり学部の人と交流することができること ・ディスカッションを通して自分の考え方を見直すことができること ・もう少しディスカッションの時間をとってほしい
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	ボランティア活動に参加するきっかけとなったこと。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	先生方の中でも授業の進め方が確立していないように思われます。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	先生方やお話をしてくださった方々、周りの友達の熱意に、とても良い影響を受けました。また、様々な学部の人があったので、それぞれの視点からの考え方を聞くことができて良かったです。グループでのディスカッションが、意見を共有できてとても楽しかったです。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	先生が学生をちゃん付けて呼んだり気安くボディタッチしたりするなど、距離感が近く怖かった。適切な距離感を保ってほしい。また、最後の議論では学生中心と言いつつも先生が決めも先生が担っていて学生中心とは程遠いと感じた。
2U112	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	最終講義のディスカッションが先生同士のディスカッションになっていたので生徒のディスカッションのはずなのにな、と残念に思いました。

■令和4年度後期 ESD教育委員会授業振り返りアンケート結果

◇選択式回答結果

時間 割 コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員 所属	曜日	時 限	開講区分	教育部会	【設問1】この授業に関して、平均して毎週どれくらい自己学修(予習、復習を含む)をしましたか。 1. 180分以上、2. 120分以上-180分未満、 3. 60分以上-120分未満、4. 30分以上-60分未満、 5. 0-30分未満							【設問2】この授業の内容はよく理解できましたか。 1. そう思う、2. どちらかといえばそう思う、3. どちらともいえない、 4. どちらかといえばそう思わない、5. そう思わない							【設問3】シラバスに書かれている到達目標をあなたはどの程度達成できたと思いますか。 1. 十分に達成できた、2. ある程度達成できた、3. どちらともいえない、 4. あまり達成できなかった、5. 達成できなかった、6. 到達目標が分からない、 7. シラバスを読んでいない							【設問5】この授業でより工夫してほしい事項があればチェックしてください(複数可)。 1. 担当教員の授業への熱意、2. 担当教員の学生に対する接し方、 3. 担当教員の話し方、4. BEEF等の学修支援システムの内容、板書、教材等、5. シラバス、 6. 授業の進み方・計画性、7. 特になし							【設問7】総合的に判断して、この授業は有益であったと思いますか。 1. 有益であった、2. どちらかといえば有益であった、 3. どちらともいえない、4. どちらかといえば有益ではなかった、 5. 有益ではなかった									
								回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計				
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環	月	5	第3クオータ	ESD			1	5	11	17	4	10	2	1			17	1	10	4				1	1	17					3	1	3	13	20	7	6	4				17
3U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	清野 未恵子	人間発達環	水	5	第3クオータ	ESD				2	4	6	2	4					6	1	4	1						6					2		3	2	7	3	2	1				6
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環	月	5	第4クオータ	ESD			2	1	4	8	15		8	4	2	1	15			9	2	2		1	1	15	1	3	3	4			7	8	26	6	5	2	1	1		15
4U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	清野 未恵子	人間発達環	水	5	第4クオータ	ESD					3	6	9	4	4		1		9	1	7	1						9					2		2	7	11	7	1	1				9

時間 割 コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員 所属	曜日	時 限	開講区分	回答率	【設問1】							【設問2】							【設問3】							【設問5】							【設問7】						
								回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	回答 6	回答 7	総計	回答 1	回答 2	回答 3	回答 4	回答 5	総計	
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環	月	5	第3クオータ	38%	0%	0%	6%	29%	65%	17	24%	59%	12%	6%	0%	17	6%	59%	24%	0%	0%	6%	6%	17	0%	0%	0%	15%	5%	15%	65%	20	41%	35%	24%	0%	0%		17
3U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	清野 未恵子	人間発達環	水	5	第3クオータ	21%	0%	0%	0%	33%	67%	6	33%	67%	0%	0%	0%	6	17%	67%	17%	0%	0%	0%	0%	6	0%	0%	0%	29%	0%	43%	29%	7	50%	33%	17%	0%	0%		6
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環	月	5	第4クオータ	59%	0%	13%	7%	27%	53%	15	0%	53%	27%	13%	7%	15	0%	60%	13%	13%	0%	7%	7%	15	4%	12%	12%	15%	0%	27%	31%	26	40%	33%	13%	7%	7%		15
4U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	清野 未恵子	人間発達環	水	5	第4クオータ	44%	0%	0%	0%	33%	67%	9	44%	44%	0%	11%	0%	9	11%	78%	11%	0%	0%	0%	0%	9	0%	0%	0%	18%	0%	18%	64%	11	78%	11%	11%	0%	0%		9

■令和4年度後期 ESD教育部会授業振り返りアンケート結果

◇記述式回答結果

設問4:この授業を振り返って、自らの学修に関する感想があれば書いてください。

時間割コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第3クォーター	ESD	この授業では、様々な専門の先生の話を書いたので、非常に有益な授業だった。なので、僕自身のモチベーションも常に高く保てとと思う。
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第3クォーター	ESD	授業内容が難しくついていけなかった。
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第3クォーター	ESD	持続可能な開発のための教育という論点で、生涯を通じた学習を創生していくにはどうすればいいのかななどを考察したことで、自分の暮らしと学びは工夫や自分の意識で深く繋げることができるのだと知りました。これまで「勉強」と聞くと、受験勉強のようにしんどいというイメージしか湧きませんでした。今回の授業で、自分や自分の周囲の環境を高める重要な手段なのだと思います。
3U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第3クォーター	ESD	自分の意見を他の人に共有するという力が足りないと感じたので、ESD論Bでは自分で考え、その意見を表現する力を身に付けていきたい。
3U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第3クォーター	ESD	様々な専門の先生方の話を聞けたので良かった。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	ESDに関する知見が深まった。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	グループワークでは積極的に発言することができた。しかし、みんなの前で自分の意見や質問を積極的に言うことができなかった。周りの人が自分の意見を批判的に捉えたらどうしよう、という不安が常にあった。しかし、人それぞれ考え方は違うので意見の食い違いは起こって当たり前のことだと思う。自分の考えていることを自信をもって言うことができ
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	授業内容が難しすぎた。ESDが結局何なのかが分からなかった。復習しようにも資料がなく復習できなかった。
4U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第4クォーター	ESD	フィールドワークに行くときにはその活動をされている団体がどのようなものか、事前に調べ自分が気になった部分をまとめることができたので良かった。また、新しい人と積極的に話しかけることができた。
4U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第4クォーター	ESD	フィールドワークを通して様々なことを学ぶことができました。

◇記述式回答結果

設問6:この授業の良かった点について、特記すべき内容があれば書いてください。また、授業をより良くするための意見・要望があれば書いてください。

時間割コード	開講科目名称	主担当教員	主担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第3クォーター	ESD	話し合いの時に、意見を自由に言える環境で、また、間違っても許容してくれる雰囲気だったので、発言しやすかった。
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第3クォーター	ESD	資料がほしいです。授業内で理解するのは難しいので、復習をしたいが、資料が無いのでどうしようもなかった。
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第3クォーター	ESD	物事に対する見方がより多角的になった。
3U103	ESD生涯学習論A	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第3クォーター	ESD	初めて聞く内容が多く、いつもとは違ったアプローチで考察することができ、自分なりの新たな気付きも生まれたのでとても面白かったです。
3U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第3クォーター	ESD	他の授業と異なり、ディスカッションの機会が多かったので、様々な人の意見を取り入れることができました。
3U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第3クォーター	ESD	話しやすい雰囲気だったので、積極的に意見を言えた。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	グループワークするときに人数を考えてほしかった。休んだ人はその人同士でまとめていただきたい。グループ分けに時間がかかりすぎ。グループの人数が多すぎるとしゃべりにくい。最後の授業に関しては一言も意見を述べられなかった。質問の内容が抽象的すぎる。指示も抽象的。もう少し具体的にわかりやすくしていただきたい。使ってる日本語が難しい。授業資料が公開されていたらもう少し自分で勉強しようとなった。結局何がしたかったのかわからない。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	グループで何かをするという授業があまりないので、ほかの人の意見を聞くことができる非常に貴重な機会でした。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	k棟6階で毎回授業があったが、2回のほかの教室はいつも使われていなかったため、できるだけ下の階で授業を行った方がよいと思う。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	同じメンバーで何度もグループワークをしていた点がよくかった。お互いの考えをすでに話している関係だったので、グループのメンバーと考えを深掘りしやすかった。しかし、もう少し多くの人と話したかったとも思う。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	フィールドワークが非常に刺激的でした。
4U103	ESD生涯学習論B	松岡 広路	人間発達環境学研究科	月	5	第4クォーター	ESD	生涯学習についてもっと深く学びたかった。内容的にESDが中心になって、生涯学習の観点で考えることが少なかったように思う。
4U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第4クォーター	ESD	実際にフィールドワークに行く→フィールドワークで新しい人と出会う→新しいことを発見する→自分の感じたこと・考えたことを整理する→ESDとのつながりを考える→他の人とリフレクションをする→もう一度自分の考えたことを整理する というフィールドワークでの学びを生かせることができる順序を自分の中でつくることのできる講義だったので良かったと
4U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第4クォーター	ESD	k棟6階で毎回授業が行われていたが、2階のほかの教室は使われていなかったため、できるだけ下の階で授業を行った方がよいと思う。
4U106	ESD論(持続可能な社会づくり2)B	清野 未恵	人間発達環境学研究科	水	5	第4クォーター	ESD	ディスカッションの機会が多く、他の人の意見を聴くことができたので、多様な考え方を学ぶことができました。

■令和5年度前期 ESD教育部会授業振り返りアンケート結果

◇記述式回答結果 設問4:この授業を振り返って、自らの学修に関する感想があれば書いてください。

時間割コード	開講科目名称	担当教員	担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
2U098	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	松岡 広路	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	物事を様々な視点でみる重要性を知った。
2U098	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	松岡 広路	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	フィールドワークに関する資料を作成する際には使う材料を持参することで、より見やすい発表資料を製作することができました。また、この講義を通して、異質な人と交流することの楽しさや難しさを少し理解できました。
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	ボランティアについて自分に何ができるかよく考えられた。
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	講義や調べ学習を通して、今まで疑問に思っていなかった事について考えることができました。この講義は第2クォーターで終わりですが、これからも日常にある小さな疑問や違和感を見つけ、それについて考える時間を作っていきたいと思います。
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	SDGsについてより多面的に考えることができました。自分に出来る事を考える良い機会になったし、SDGsの問題点を知ることも
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	楽しかったけど自分に何が身についたのかはよく分からない
2U103	阪神・淡路大震災と都市の安全	近藤 民代	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	意欲的に参加できた。
2U103	阪神・淡路大震災と都市の安全	近藤 民代	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	毎回の授業で関心を持ってメモを取りながら、講義をきけた。

◇記述式回答結果 設問6:この授業の良かった点について、特記すべき内容があれば書いてください。また、授業をより良くするための意見・要望があれば書いてください。

時間割コード	開講科目名称	担当教員	担当教員所属	曜日	時限	開講区分	教育部会	回答
2U098	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	松岡 広路	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	実習を取り入れていたあった点良かったと思います。そう考える理由は、授業を聞くだけでは見つけられないものを見つけることができたからです。
2U098	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	松岡 広路	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	元々未関係の人とグループワークができたこと。
2U098	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	松岡 広路	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	六甲ホール、百年記念館の地面ではなく、教室の机でポスターを作製したかったです。
2U098	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	松岡 広路	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	ESD基礎と言いつつ、ESDに関することを勉強できたような気がまったくしない。授業内容も何をしてほしいのかよくわからない幼稚なもので、学びも全くなかったシラバスに書いてほしい
2U098	ESD基礎(持続可能な社会づくり)	松岡 広路	人間発達環境	水	5	第2クォーター	ESD	グループに分かれて各テーマについて調べ、発表するという授業の形がよかった。
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	実際にボランティアの現場に出ている人の話を聞くことができたのが、いい経験になった。また、限られた時間でグループでツアープランを立てることも、やってみれば自分たちで深く考える機会になりよかった。
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	先生が楽しそうに解説していた点がとてもよかったです。
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	SDGsの取り組みをされているゲストスピーカーの方々のお話を聞くことができて良かったです。
2U099	ESDボランティア論	清野 未恵	人間発達環境	月	5	第2クォーター	ESD	話が長い
2U103	阪神・淡路大震災と都市の安全	近藤 民代	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	シラバスに記載のない最終レポートが辛かった。
2U103	阪神・淡路大震災と都市の安全	近藤 民代	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	わかりやすい人と分かりにくい人がいた
2U103	阪神・淡路大震災と都市の安全	近藤 民代	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	最終回のNHKの方の、災害報道の当事者としてのお話がとても興味深かったです。
2U103	阪神・淡路大震災と都市の安全	近藤 民代	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	災害をあらゆる観点から学べたので、どの授業も自分がこれから専門として学ぶ分野以外からの視点だったので聞いていて驚くこと、新しく知ることがたくさんありました。
2U103	阪神・淡路大震災と都市の安全	近藤 民代	工学研究科	火	2	第2クォーター	ESD	どの回も非常に興味深い授業で、最終回は私の興味関心に強く影響を与える授業となった。

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	1U098	開講区分	第1クォーター
開講科目名	阪神・淡路大震災 B	曜日・時限等	火2 (対面)
成績入力担当	飯塚 敦	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>1995年に起きた阪神・淡路大震災は、現代都市が地震に襲われた最初の経験であり、大きな被害を生じた。それから23年が経ち、さまざまな対策が考えられている一方、人々の記憶は薄らいでいっている。この講義では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえながら、各分野の研究者と現場の専門家が協力して、その具体的な取り組みと今後の課題を明らかにしていく。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>阪神・淡路大震災の被災地の大学生として何をなすべきか、また、地域の安全に対する配慮と関与のあり方について考える基盤を形成する。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>災害を防ぎ被害を最小限に食い止めることのできる社会、「減災社会」を創っていくために、学問と社会活動と政策の有機的な提携が必要とされている。震災による被害状況等について基礎事項を解説し、今後の対策を検討する上で重要な課題を考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地盤環境リスク評価 2. 地震災害リスク評価 3. 減災エリアマネジメント 4. 情報コミュニケーション 5. 安全コミュニケーション 6. 感染症リスク・コミュニケーション 7. インフラ基盤メンテナンス <p>授業の形態 対面の授業を指向するが、新型コロナ感染拡大防止の観点からリアルタイムWEB授業とする場合もある。そちらの形態になるかはBeefにて告知する。</p>
<p>■ 成績評価方法</p> <p>各授業の小レポート100%で評価する。 各回の講義の冒頭の問題文が提示され、最後の10分間が小テストの時間にあてられる。なお、東日本大震災などの災害救援ボランティア活動に自主的に参加し、レポートを提出することにより、加点が可能である。詳細は授業中に指示する。</p>
<p>■ 成績評価基準</p> <p>防災・災害などについて適切に考察を行いレポート作成ができているかを評価する。 小テストによる得点が90点以上をS（秀），80点以上90点未満をA（優），70点以上80点未満をB（良），60点</p>

以上70点未満をC（可）とする。	
■履修上の注意（関連科目情報）	
<p>●毎回受講前に、参考書、インターネットなどで阪神・淡路大震災の関連項目についての基本的な情報を取得してから、講義に臨んでください。また、教科書、当日配布資料やインターネット等で内容を復習し、理解を定着してください。</p> <p>●この授業では、遅刻・途中入場は成績の減点対象とします。</p>	
■事前・事後学修	
<p>●毎回受講前、及び、受講後、参考書、インターネットなどで阪神・淡路大震災の関連項目についての基本的な情報を取得してから、講義に臨んでください。また、教科書、当日配布資料やインターネット等で内容を復習し、理解を定着してください。</p> <p>本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。</p>	
■学生へのメッセージ	
<p>阪神・淡路大震災から23年を迎える今、神戸市では震災経験のない住民が4割を超え、震災の記憶の風化が懸念される。また、南海トラフ巨大地震の脅威が迫っている中、被災地神戸では震災の教訓を広く社会に発信する責務が高まっている。履修者には、履修過程で得られた教訓など、今後の防災対策を検討する上で重要な知識を身につけていただきたい。</p>	
■教科書	
BEEFなどで必要に応じて資料を配布する。	
■参考書・参考資料等	
<p>参考資料を必要に応じて配布する。</p> <p>震災復興学 - 阪神・淡路20年の歩みと東日本大震災の教訓 / 神戸大学震災復興支援プラットフォーム 編：ミネルヴァ書房, 2015年, ISBN:9784623074211</p>	
■授業における使用言語	
日本語	
■キーワード	
阪神・淡路大震災 被害 メカニズム 社会影響 復興 「遠隔授業」	
■参考URL	

担当教員一覧

教員	所属
飯塚 敦	工学研究科
教員未定	国際コミュニケーションセンター

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	2U098	開講区分	第2クォーター
開講科目名	阪神・淡路大震災と都市の安全	曜日・時限等	火2(対面)
成績入力担当	飯塚 敦	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>1995年に起きた阪神・淡路大震災は、現代都市が地震に襲われた最初の経験であり、大きな被害を生じた。それから23年経ち、さまざまな対策が考えられている一方、人々の記憶は薄らいでいっている。この講義では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえながら、各分野の研究者と現場の専門家が協力して、その具体的な取り組みと今後の課題を明らかにしていく。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>阪神・淡路大震災の被災地の大学生として何をなすべきか、また、地域の安全に対する配慮と関与のあり方について考える基盤を形成する。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>災害を防ぎ被害を最小限に食い止めることのできる社会、「減災社会」を創っていくために、学問と社会活動と政策の有機的な提携が必要とされている。震災による被害状況等について基礎事項を解説し、今後の対策を検討する上で重要な課題を考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 阪神・淡路大震災と住宅復興 2. 兵庫県南部地震と構造物の被害 3. 人的被害 4. 災害・復興に関わる法律・制度 5. NPO・ボランティアの役割 6. 災害と文化 7. 災害とジェンダー 8. 災害報道の役割 <p>授業の形態 対面の授業を指向するが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からリアルタイムWEB授業とする場合もある。そちらの形態になるかはBeefにて告知する。</p>
<p>■ 成績評価方法</p> <p>各授業の小レポート100%で評価する。 各回の講義の冒頭の問題文が提示され、最後の10分間が小テストの時間にあてられる。なお、東日本大震災などの災害救援ボランティア活動に自主的に参加し、レポートを提出することにより、加点が可能である。詳細は授業中に指示する。</p>
<p>■ 成績評価基準</p>

<p>防災・災害などについて適切に考察を行いレポート作成ができているかを評価する。 小テストによる得点が90点以上をS（秀），80点以上90点未満をA（優），70点以上80点未満をB（良），60点以上70点未満をC（可）とする。</p>
<p>■履修上の注意（関連科目情報）</p>
<p>●毎回受講前に、参考書、インターネットなどで阪神・淡路大震災の関連項目についての基本的な情報を取得してから、講義に臨んでください。また、教科書、当日配布資料やインターネット等で内容を復習し、理解を定着してください。</p> <p>●この授業では、遅刻・途中入場は成績の減点対象とします。</p>
<p>■事前・事後学修</p>
<p>●毎回受講前、及び、受講後、参考書、インターネットなどで阪神・淡路大震災の関連項目についての基本的な情報を取得してから、講義に臨んでください。また、教科書、当日配布資料やインターネット等で内容を復習し、理解を定着してください。</p> <p>本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。</p>
<p>■学生へのメッセージ</p>
<p>阪神・淡路大震災から23年を迎える今、神戸市では震災経験のない住民が4割を超え、震災の記憶の風化が懸念される。また、南海トラフ巨大地震の脅威が迫っている中、被災地神戸では震災の教訓を広く社会に発信する責務が高まっている。履修者には、履修過程で得られた教訓など、今後の防災対策を検討する上で重要な知識を身につけていただきたい。</p>
<p>■教科書</p>
<p>BEEFなどで必要に応じて資料を配布する。</p>
<p>■参考書・参考資料等</p>
<p>参考資料を必要に応じて配布する。 震災復興学 - 阪神・淡路20年の歩みと東日本大震災の教訓 / 神戸大学震災復興支援プラットフォーム 編：ミネルヴァ書房, 2015年, ISBN:9784623074211</p>
<p>■授業における使用言語</p>
<p>日本語</p>
<p>■キーワード</p>
<p>阪神・淡路大震災 被害 メカニズム 社会影響 復興 「遠隔授業」</p>
<p>■参考URL</p>

担当教員一覧

教員	所属
飯塚 敦	工学研究科

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	2U111	開講区分	第2クォーター
開講科目名	ESD基礎（持続可能な社会づくり1）	曜日・時限等	水5（対面）
成績入力担当	清野 未恵子	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>（ESDコース修了認定科目） （社会教育主事資格科目）</p> <p>ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み（場・装置・活動）のことです。 ESDコースでは、さまざまな社会セクターのなかでESDが立ち現れる仕掛けを作っていく「新しいタイプのリーダー」を育成します。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>ESD基礎では、あらゆる人との関係づくりや学び合い（協働・共同・協同）を体験するとともに、頭と体と心をゆるめほぐすなかで、固定観念や思い込みを一旦学びすて、また構築することを繰り返す、「ゆらぎ」も体験してもらいます。</p> <p>ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>ESDが射程にいられている社会的課題を認識しつつ、出会いとアンラーン（学びほぐし）を通して、自身の認識装置を見直します。</p> <p>この授業は対面と遠隔授業（リアルタイム）を組み合わせでおこなうブレンド型授業の予定です。 ※社会情勢をみながら、遠隔授業のみに変更する可能性もあります。</p> <p>【授業の進め方（予定）】</p> <p>1回 6/15 ガイダンス「SDとは」 2回 6/22 キャンパスSDGsワークショップ 3回 6/29 学内フィールドワーク 4回 7/ 6 神戸大学のSD問題を考える 5回 7/13 神戸大学のSD問題の共有 6回 7/20 神戸大学大改造計画づくりワークショップ（1） 7/8回 7/27（17:00～19:00）神戸大学大改造計画づくりワークショップ（2） ※最終回は、17:00～19:00の2時間で行います。</p>

<p>■成績評価方法</p> <p>出席(50%)、授業への関与度(20%)、レポート(30%)とし、総合的に判断する。</p>
<p>■成績評価基準</p> <p>授業の到達目標を指標として、ESDを実践していく上でのかまえがどの程度意識されているかを観点に、90点以上をS(秀)、80点以上90点未満をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とする。</p>
<p>■履修上の注意(関連科目情報)</p> <p>定員150名。希望人数が多い場合は抽選をするので、必ず以下の説明会(どちらかの1回で可)に参加すること。これは自身で履修登録することはできない科目です。</p> <p>【説明会(対面)】※詳細は4月以降、国際教養教育院のHP等でも案内をします。</p> <p>鶴甲第1キャンパスB210教室 4月11日(月) 12:30~13:10 4月13日(水) 12:30~13:10 ※いずれか1日だけの参加で構いません。</p> <p>上記の説明会に参加できなかった場合は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BEEFで「ESD基礎」または「ESDボランティア論」を仮登録し、アーカイブを視聴してください。 ・アーカイブを視聴した上で履修を希望する場合は、「esd@port.kobe-u.ac.jp」に4月14日(木) 16:00までにメールをしてください。※延長しました。
<p>■事前・事後学修</p> <p>各回異なるが、ESDについての情報を事前に調べておいたり、従業後の情報を再確認したりすること。本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。</p>
<p>■学生へのメッセージ</p> <p>ESDコース修了認定に関心のある人は、この授業、または、「ESDボランティア論」を履修すること。ESDプラクティショナーについては、人間発達環境学研究科のホームページにある「神戸大学ESDコース」も参照のこと。</p> <p>http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd</p>
<p>■教科書</p> <p>特に定めませんが、ESDやSDGに関連する書籍が多く出版されていますので、ご自身で探してみてください。そこから主体的な学びが始まります。</p>
<p>■参考書・参考資料等</p> <p>適宜、指示します。</p>
<p>■授業における使用言語</p> <p>日本語</p>
<p>■キーワード</p> <p>ESD フィールドワーク アクションリサーチ ワークショップ</p>
<p>■参考URL</p>

<http://esd-tourprogram.org/esd/events/>
<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd>

担当教員一覧

教員	所属
松岡 広路	人間発達環境学研究科
喜屋武 享	人間発達環境学研究科
清野 未恵子	人間発達環境学研究科

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	2U112	開講区分	第2クォーター
開講科目名	ESDボランティア論	曜日・時限等	月5(対面)
成績入力担当	清野 未恵子	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>(ESDコース修了認定科目)</p> <p>ESDとは、互いに連携・協働しながら、あらゆる人が、持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み(場・装置・活動)のことです。 ESDコースでは、さまざまな社会セクターのなかでESDが立ち現れる仕掛けを作っていく「新しいタイプのリーダー」を育成します。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>ESDボランティア論では、あらゆる人との関係づくりや学び合い(協働・共同・協同)を体験しながら、(互いに異質であることの面白さや出会いの大切さを感じながら)、頭と体と心をゆるめ、ほぐすことで、固定観念やこだわり、思い込みを学び捨てていきます。</p> <p>ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者(practitioner)としての「構え」(ESDに必要な価値・態度・技術)を、いったん身につけることを目的としています。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>ESDに関連するボランティア団体からの話題提供と、ボランティア参加、それらを通したグループ対話から、ESDとボランティアの関係について考えます。</p> <p>この授業は、基本的に対面を予定していますが、場合によっては遠隔授業(リアルタイム)の回も組み合わせながら、ブレンド型でおこないます。 ※社会情勢をみながら、授業方法を変更する可能性があります。</p> <p>【授業の進め方(予定)】</p> <p>1回 6/13 ガイダンス「ボランティアとは」 2回 6/20 ボランティアが社会を変える(1) 3回 6/27 ボランティアが社会を変える(2) 4回 7/ 4 ボランティアが社会を変える(3) 5回 7/11 ESDとボランティアの関係を考える 6回 7/25 この夏の私の活動を考える 7・8回 8/1 ESD交流会(17:00~19:00)</p> <p>※ESD交流会は、17:00~19:00の2時間で行います。</p>
<p>■ 成績評価方法</p>

各授業における積極性、ボランティア活動参加、最後のレポートを総合的に判断します。

成績は90点以上をS（秀），80点以上90点未満をA（優），70点以上80点未満をB（良），60点以上70点未満をC（可）とします。

■成績評価基準

- ・ボランティアの多面性を理解できたか
- ・ボランティアと学びの関係を理解できたか
- ・自身の固定観念やこだわりや思い込みへの気づきがあったか

■履修上の注意（関連科目情報）

定員150名。希望人数が多い場合は抽選をするので、**必ず以下の説明会（どちらかの1回で可）に参加すること。これは自身で履修登録することはできない科目です。**

【説明会（対面）】※詳細は4月以降、国際教養教育院のHP等でも案内をします。

鶴甲第1キャンパス**B210教室**

4月11日（月）12:30～13:10

4月13日（水）12:30～13:10

※いずれか1日だけの参加で構いません。

上記の説明会に参加できなかった場合は、

- ・BEEFで「ESD基礎」または「ESDボランティア論」を仮登録し、アーカイブを視聴してください。
- ・アーカイブを視聴した上で履修を希望する場合は、「esd@port.kobe-u.ac.jp」に**4月14日(木)16:00**までにメールをしてください。※延長しました。

■事前・事後学修

ESDコースの説明をHP等で確認しておいてください。また、授業中に出示された参考文献を読解するとともに、課題について自分なりの考えを組み立ててください。

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行ってください。

■学生へのメッセージ

ESDコース修了認定に関心のある人は、この授業、または、「ESD基礎」を履修すること。

ESDコース修了認定については、人間発達環境学研究科のホームページにある「神戸大学ESDコース」を参照のこと。

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd>

■教科書

特に定めませんが、ESDやSDGに関連する書籍が多く出版されていますので、ご自身で探してみてください。そこから主体的な学びが始まります。

■参考書・参考資料等

授業中に随時指示します。

■授業における使用言語

日本語

■キーワード

ESD（持続可能な開発のための教育） ボランティア 体験的学習 SDGs

■ 参考URL

<http://esd-tourprogram.org/esd/events/>
<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd>

担当教員一覧

教員	所属
松岡 広路	人間発達環境学研究科
喜屋武 享	人間発達環境学研究科
清野 未恵子	人間発達環境学研究科

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	3U103	開講区分	第3クォーター
開講科目名	E S D生涯学習論A	曜日・時限等	月5 (対面)
成績入力担当	松岡 広路	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>(ESDコース修了認定科目) (学芸員・社会教育主事資格科目)</p> <p>ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み（場・装置・活動）のことです。 ESDコースでは、さまざまな社会セクターのなかでESDが立ち現れる仕掛けを作っていく「新しいタイプのリーダー」を育成します。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>ESD生涯学習論Aでは、多様な社会教育実践を通じて、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追うことの楽しさや専門を総合化することの大切さを学んでもらいます。</p> <p>ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>ESDの概念を明らかにしつつ、生涯学習の各領域との関連性を考究する。</p> <p>世代のつながり、あらゆる世代における学び、学校教育の範疇を超えた学習テーマや社会的課題を巡っての学習が総動員されて、ESDがすすむことについて理解する。</p> <p>【授業の進め方（予定）】</p> <p>1回 10/3 ガイダンス「ESDと生涯学習」 2回 10/17 拡張する学びの地平1～空間論 3回 10/24 拡張する学びの地平2～時間論 4回 10/31 持続可能な開発という学びのベクトル～SDGsとESD 5回 11/7 こどもの学びとESD 6回 11/14 奥深い対話～人と人のあいだ 7/8回 11/21 総合リフレクション</p>
<p>■ 成績評価方法</p> <p>授業への積極的な出席状況（50%）、レポート（50%）を総合化して判断する。</p>
<p>■ 成績評価基準</p>

問題関心の高さ、授業への積極性、授業の理解度の観点で、90点以上をS（秀）、80点以上90点未満をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とする。
■履修上の注意（関連科目情報）
履修を希望する方は、第1回の授業（10/3）に参加し、履修希望カードを提出してください。履修登録はこちらで行います。
ESD生涯学習論B（4Q）またはESD論B（4Q）と合わせて履修すること。 また、ESDコースの基礎科目群の「ESD基礎（2Q）」または「ESDボランティア論（2Q）」を履修していることが望ましい。
■事前・事後学修
各回のテーマに沿って事前に情報を調べたり、授業後には得られた知見について各自調べて整理すること。
■学生へのメッセージ
ESDを実質化する生涯学習のあり方をともに探求しましょう。 ESDに関連する科目を履修して、ESDコース修了認定を目指してみよう。 ESDコースについては、人間発達環境学研究科のホームページを参照してください。 http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd
■教科書
特に指定しないが、生涯学習やESDに関連する書籍は多く出版されているので、各自で読んでみてください。主体的な学びの姿勢を求めます。
■参考書・参考資料等
授業中に指示する
■授業における使用言語
日本語
■キーワード
持続可能な開発 生涯学習 エンパワメント 環境教育 開発教育 人権教育 福祉教育
■参考URL
http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd

担当教員一覧

教員	所属
松岡 広路	人間発達環境学研究科
喜屋武 享	人間発達環境学研究科
清野 未恵子	人間発達環境学研究科

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	3U106	開講区分	第3クォーター
開講科目名	ESD論（持続可能な社会づくり2）A	曜日・時限等	水5（対面）
成績入力担当	清野 未恵子	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>（ESDコース修了認定科目） （社会教育主事資格科目）</p> <p>ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み（場・装置・活動）のことです。 ESDコースでは、さまざまな社会セクターのなかでESDが立ち現れる仕掛けを作っていく「新しいタイプのリーダー」を育成します。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>ESD論Aでは、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追うことの楽しさや専門を総合化することの大切さを学んでもらいます。</p> <p>ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>ESDに関連する研究・実践に関する講義から、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）の実例について理解を深めてもらいます。</p> <p>【授業の進め方（予定）】 1回 10/5 ガイダンス 2回 10/12 SDと多様な課題①森林生態系とサステナビリティ 3回 10/19 SDと多様な課題②社会環境と持続可能な開発 4回 10/26 SDの多様な課題③開発と公平性－フェアトレードの意味 開発と地域創成 5回 11/ 2 SDの多様な課題④環境経済の現在・未来 6回 11/9 SDの多様な課題⑤人権・平和と持続可能な開発 7/8回 11/16 これまでの授業をふまえたリフレクション ※7、8回は17:00～19:00まで行います。</p>
<p>■ 成績評価方法</p> <p>授業後のリフレクションシートと、最終レポートを総合的に判断します。</p> <p>成績は90点以上をS（秀），80点以上90点未満をA（優），70点以上80点未満をB（良），60点以上70点未満をC（可）とする。</p>

<p>■ 成績評価基準</p>
<p>・ ESDと、各専門分野の研究・実践との関連が理解できている。</p>
<p>■ 履修上の注意（関連科目情報）</p>
<p><u>履修を希望する方は、ESD論Aの第1回の授業（10/5）に参加し、履修希望カードを提出してください。履修登録はこちらで行います。教室は鶴甲第一キャンパスK601教室だと思いますが、各自HP等で確認してください。</u></p> <p>ESD論B（4Q）と合わせて履修すること。</p> <p>また、ESDコースの基礎科目群の「ESD基礎（2Q）」または「ESDボランティア論（2Q）」を履修していることが望ましい。</p>
<p>■ 事前・事後学修</p>
<p>授業中に指示します。</p>
<p>■ 学生へのメッセージ</p>
<p>ESDコース修了認定に関心のある人は、この授業、または、「ESD生涯学習論A/B」を履修すること。 ESDコース修了認定については、人間発達環境学研究科のホームページにある「神戸大学ESDコース」を参照のこと。 http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd</p>
<p>■ 教科書</p>
<p>特に定めませんが、ESDやSDGsに関連する書籍は多く出版されているので自身で色々探してみてください。主体的な学びの姿勢を求めます。</p>
<p>■ 参考書・参考資料等</p>
<p>授業中に随時指示します。</p>
<p>■ 授業における使用言語</p>
<p>日本語</p>
<p>■ キーワード</p>
<p>ESD（持続可能な開発のための教育） SDGs</p>
<p>■ 参考URL</p>
<p>http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/yellow/esd/index.html</p>

担当教員一覧

教員	所属
松岡 広路	人間発達環境学研究科
喜屋武 享	人間発達環境学研究科
清野 未恵子	人間発達環境学研究科

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	4U103	開講区分	第4クォーター
開講科目名	E S D生涯学習論B	曜日・時限等	月5 (対面)
成績入力担当	松岡 広路	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>(ESDコース修了認定科目) (学芸員・社会教育主事資格科目)</p> <p>ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み（場・装置・活動）のことです。 ESDコースでは、さまざまな社会セクターのなかでESDが立ち現れる仕掛けを作っていく「新しいタイプのリーダー」を育成します。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>ESD生涯学習論Bでは、ESD生涯学習論Aをふまえて、ESDと生涯学習の関係を肌で感じ取り、ESDを生み出す生涯学習支援方策への理解を深めてください。</p> <p>ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を身につけることを目的としています。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>多様な学生間の交流と、フィールドワークでの経験を通してESDとしての意味を探る。</p> <p>【授業の進め方（予定）】 ※ESD生涯学習論Bの履修を希望している学生は、ESD生涯学習論Aと合わせて履修することが望ましいです。したがって、履修を希望する方は、ESD生涯学習論Aの最初の授業（10/3）に参加してください。</p> <p>1回 12/5 ガイダンス ESDと生涯学習支援 2回 12/12 ESDの立ち現れる学習支援の方法 1 アンドラゴジー 3回 12/19 ESDの立ち現れる学習支援の方法 2 ネットワーキングとインクルージョン 4回 12/26 フィールドワーク1(または学びづくりワークショップ) 5回 1/16 フィールドワーク2 (または学びづくりワークショップ) 6回 1/23 ESDの立ち現れる学習支援の方法4 7/8回 1/30 (17:00~19:00) ESDの学びをデザインする ※リフレクションは17:00~19:00の2時間で行います。</p>
<p>■ 成績評価方法</p>

授業への出席状況（50%）、レポート（50%）を総合化して判断します。
■成績評価基準
実践への関与度、ESDの実践課題についての理解度を観点に、90点以上をS（秀）、80点以上90点未満をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とします。
■履修上の注意（関連科目情報）
履修を希望する方は、ESD生涯学習論Aの第1回の授業（10/3）に参加し、履修希望カードを提出してください。履修登録はこちらで行います。教室は鶴甲第一キャンパスK601教室だと思いましたが、各自HP等で確認してください。
ESD論A（3Q）またはESD生涯学習論A（3Q）のいずれかを履修することが望ましい。
また、ESDコースの基礎科目群の「ESD基礎（2Q）」または「ESDボランティア論（2Q）」を履修していることが望ましい。
■事前・事後学修
授業回によって異なるグループでの話し合いを行う。各授業後のリフレクションミニレポートとして感想や意見をまとめること。
■学生へのメッセージ
ESDに関連する科目を履修して、ESDコース修了認定を目指してみよう。 ESDコースについては、人間発達環境学研究科のホームページを参照してください。 http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd
■教科書
特に指定しないが、生涯学習やESDに関連する書籍は多く出版されているので、各自で読んでみてください。主体的な学びの姿勢を求めます。
■参考書・参考資料等
授業中に指示します。
■授業における使用言語
日本語
■キーワード
フィールドワーク 体験学習 ESD 持続可能な開発 生涯教育
■参考URL
http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd http://esd-tourprogram.org/esd/events/

担当教員一覧

教員	所属
松岡 広路	人間発達環境学研究科
喜屋武 享	人間発達環境学研究科
清野 未恵子	人間発達環境学研究科

基本情報

科目分類	総合教養科目	開講年次	1・2・3・4年
時間割コード	4U106	開講区分	第4クォーター
開講科目名	E S D論（持続可能な社会づくり2）B	曜日・時限等	水5（対面）
成績入力担当	清野 未恵子	単位数	1.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	U1BB100

[担当教員一覧](#)**詳細情報**

<p>■ 授業のテーマ</p> <p>（ESDコース修了認定科目） （社会教育主事資格科目）</p> <p>ESDとは、あらゆる人が互いに連携・協働しながら持続可能な開発を実現する主体になるような仕組み（場・装置・活動）のことです。 ESDコースでは、さまざまな社会セクターのなかでESDが立ち現れる仕掛けを作っていく「新しいタイプのリーダー」を育成します。</p>
<p>■ 授業の到達目標</p> <p>ESD論Bでは、ESD論Aをふまえて、ESDの世界に触れ、SDを探究する面白さを感じながら、理想を追うことの楽しさや専門を総合化することの大切さをグループワークを通して主体的に学んでもらいます。</p> <p>ESDコースの他の科目とともに履修してもらうことで、ESDが立ち現れる仕掛けをつくる実践者（practitioner）としての「構え」（ESDに必要な価値・態度・技術）を、いったん身につけることを目的としています。</p>
<p>■ 授業の概要と計画</p> <p>SDGsの総合化を目指す（ポスト・ウィズコロナ社会のフィールドワークをイメージする）</p> <p>フィールドワークへの参加も予定しています。</p> <p>【授業の進め方（予定）】 この授業は、ESD論Aと合わせて履修することが望ましいため、履修を希望する方は、ESD論Aの第1回の授業（10/5）に参加し、履修希望カードを提出してください。履修登録はこちらで行います。</p> <p>1回 12/7 ガイダンス プラットフォームの可能性 2回 12/14 フィールドから立ち現れる学び 3回 12/21 持続可能な島づくりプログラム（邑久光明園）の紹介 4回 1/11 農村レジリエンスプログラム（篠山農業体験）の紹介 5回 1/18 フィールドワーク期間（1） 6回 1/25 フィールドワーク期間（2） 7/8回 2/1 総合リフレクション ※総合リフレクションは17:00～19:00まで行います。</p>
<p>■ 成績評価方法</p>

<p>授業後のリフレクションシートと最終レポートなどを総合的に判断します。</p> <p>成績は90点以上をS（秀），80点以上90点未満をA（優），70点以上80点未満をB（良），60点以上70点未満をC（可）とする。</p>
<p>■成績評価基準</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・SDを探究する意義を意識化できている。 ・ESDと実践との関連において、専門を総合化することの大切さを理解できている。
<p>■履修上の注意（関連科目情報）</p>
<p><u>履修を希望する方は、ESD論Aの第1回の授業（10/5）に参加し、履修希望カードを提出してください。履修登録はこちらで行います。教室は鶴甲第一キャンパスK601教室だと思いますが、各自HP等で確認してください。</u></p> <p>ESD論A（3Q）またはESD生涯学習論A（3Q）のいずれかを履修しておくこと。</p> <p>また、ESDコース基礎科目群の「ESD基礎（2Q）」または「ESDボランティア論（2Q）」を履修していることが望ましい。</p>
<p>■事前・事後学修</p>
<p>授業中に指示する。</p>
<p>■学生へのメッセージ</p>
<p>ESDプラクティショナーについては、人間発達環境学研究科のホームページにある「神戸大学ESDコース」を参照のこと。</p> <p>http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd</p>
<p>■教科書</p>
<p>特に指定しないが、ESD論Aをふまえて考えたことをベースに、関連するESDやSDGsの書籍を探して読んでみてください。</p>
<p>■参考書・参考資料等</p>
<p>適宜、指示する。</p>
<p>■授業における使用言語</p>
<p>日本語</p>
<p>■キーワード</p>
<p>ESD サステナビリティ 環境・経済・社会・福祉・人権・平和の葛藤・矛盾</p>
<p>■参考URL</p>
<p>http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/lecture/b-esd http://esd-tourprogram.org/esd/events/ https://web.pref.hyogo.lg.jp/awk10/documents/kaibori.pdf</p>

担当教員一覧

教員	所属
松岡 広路	人間発達環境学研究科

喜屋武 享	人間発達環境学研究科
清野 未恵子	人間発達環境学研究科